

ト思フナリ

第四百五条 急速吟味ノ法式ヲ用フ可キ諸件  
ハ呼出ノ定期ノ終リシ後一方ノ代書師ヨリ相  
手方ノ代書師ニ招書ヲ送ルルニテ其他訴訟  
ノ手續及ヒ法式ナク吟味ノ席ニテ互ニ裁判ス  
可シ

此條ハ如何ナル法式ヲ用ヒテ急簡ノ裁判ヲ為  
スマヤラズフモノトス

タトヒ急速ト云フトモ鑄道ノ如ク速ニ為スヘ  
キニアラス相当ノ急速ナラサルヘカラス  
呼出状ハ即チ八日ナリトス如シ遠キ所口ナレ  
ハ日數ヲ多クスルナラハ通常ノ通りナリ百一  
八日内ニ縮メテ呼出スモノハ此條トハ各別

司法省

ナルモノナリ

此訴訟ニ付テ保証ヲ呼フモ通常ノ式ニ同シ  
如シ此訴訟ニ付テ原告人外人ナルトキハ請人  
ヲ立ツルナリ又ハ三ヶ月四十日猶豫ヲ求ムル  
ナラモ同シ

証書ヲ見ルナリ三日内ニ求ムルナラモ同シ  
訴訟ヲ初告裁判所へ持チ出サ、ル以前ニ勸解  
裁判所へ出ツルモノ同シ

然ラハ通常ノ裁判ト何程ノ違ヒアリヤトナレ  
ハ三ツノ違ヒアリ

第一ニハ通常ナレハ十日間ニ答弁書ヲ用ヒ  
タル上ニテ裁判所へ出ツレトモ之レヲ用ヒ  
ス



通常答弁ハ十五日再答弁ハ八日ナリ此十五日  
ト八日トハナシ

通常ノ裁判ナレハ此答弁ノ為メ二ヶ月モ掛ル  
トアリト魚尾之レヲ為サシメス

第二ニハ第六章ノ第九十三條以下書面吟味ノ  
トアリ此式ニハ此書面吟味ヲ用ヒス

第三ニハ如シ証人等ヲ吟味セサルヲ得サルト  
キハ通常ナレハ別段ニ任セラレタル裁判官

ノ前ニテ証人ヲ吟味レテ書付ケテ以テソノ  
訴訟ヲ受ケ持テタル裁判官へ送ルナレハ此

式ニ於テハ裁判席ニテ公クニ聞クナリ  
此条ニ云フ如ク招書ヲ送ルノニテ其他訴訟

ノ旨ツ、キモナク又ソノ法式モナクト云フ  
司法省

トモ前ニ云フ如クノ旨ツ、キハアルナリ  
概シテ云フトキハ惣テ口状ヲ以テ吟味ヲ為ス

ハ云フナリ  
訴訟法第百三十五條ニ速ルニ裁判スルトケテ

ラ七項載セタリ保シリノ速カニ為スヘキヤ  
否ヤノ分界ハナシ故ニ一方ニテ故障ラズ

トキハ裁判官ノ見込ニテ之レヲ定ムルナリ  
第四百二條ノ第四項ノ速カナルヲ要スル訴訟

トハ必ラス故障ノ起ルトナリソノ他ノ四項  
ハ総テ定マリタルトナリトス

元来之レハ動産ノ訴訟ニ付キタルト云フナ  
レハ不動産ノトニ付キタリトモ原被双方ニ

テ承諾ノ上ナラハ裁判所ニテハ之レヲ裁判



スルナリ

又タトヒ双方承諾ナリトモ裁判所ニテ承諾セ  
サルナリアリ時ニヨリテ証人ノ数人アルトキ  
ハ一々呼ヒ出シテ聴クヲ得サルトキ等アレ  
ハナリ

至急ノナトハリノ場合ニヨリテナリノ至急ヲ顯  
ハスモノナリ

タトヘハ一方ノモノニテ被告人ハ遠方へ旅行  
スルユヘ至急ニ裁判ヲ為レ玉ヘト云フトモ  
一方ノモノニテ私ハ旅行ハイタサスト云フ  
トキハ裁判官ノ見込ニニアルナリ

タトヘハ外国人ニテ一寸行キテ婚姻ヲ為ステ  
リ私フヘキ金モアリト云フ等ハ至急ニ為ス

司法省

ナラ得ス

第四百六条ハ急簡ノ訴訟中ニ不意ニ附帯ノ訴  
訟ノ起リタルトキノナリ

之レハ通常ノ訴訟ト同シテツ、キナリ少シモ  
違ハス

第三百三十七条附帯ノ訴訟ノナトシモノ違ハ  
ス之レヲソノマ、移シタルモノナリ

第四百七条ヨリ第四百十三条マテハ証人吟味  
ノナラズモナリ通常証人吟味ト比較シ  
テ見サルヘカラス未タソノ所口ヲ説カサル  
ユヘ之レヲ説クモノノ詮ナシト思フナリ  
ソシナルノ式ヲ以テ裁判シタルモノヲ控訴  
スルトキハ即チ控訴裁判所ニテモソシムノ



ルノ式ヲ以テ裁判スルナリ

書面ノ價表ニ

第三百三十七條ニアル價ト「カンフルマクト」ト

云フ書キ付ケハ同價ナリトス

此ニ控訴裁判所ノ「ヲ」ヲ説カントス

司法省



訴訟法會議筆記

八年三月廿五日

司法部



訴訟法會議筆記 八年三月五日

控訴裁判所へ控訴スル権限ノ論ハ訴訟法中ニ  
ハナシ

何レマテハ初告裁判所何レヨリハ控訴院ト云  
フテハ書キテナシ

之レハ別段ノ法律即チ千八百三十八年四月十  
一日ノ法律ニ出ツ

此以前マテハ千七百九年ノ命令ヲ以テ定メタ  
リ

一 初告裁判所ニモ始終審ノ権限アリ  
千八百三十八年マテハ初告裁判所ニ千フラン

クマテハ終審ノ権限ヲ與ヘタリ  
之レニテハ甚タソノ額ノ少ナキハ云フヲ以テ

司法省

其年ヨリ千五百フランクマテノ権ヲ與ヘタ  
ルナリ

先會ニ急速吟味ノヲヲ説キタルトキモ以前ハ  
千フランクマテナリレカソノ後ニ千五百フ

ランクマテトナシタリト云ヒタリ  
千八百三十八年マテ此ノ如クニアリシナリ

金ナレハタトヘハ貸金又ハ払ヒ高ハ訴ヘサヘ  
スレハ直チニ何程ト云フテハ令カルナリ

然ルニ不動産ニ於テハ初メニ見積ルト甚タ難  
シ実ハ裁判ヲ為シタル後ニアラサレハ知ル

トヲ得サルナリ  
評價人ヲ入レハ高クナルナリ

併シ之レヲ見積ルノ法アリ甚タ奇ナルヲアリ



リノ不動産ノ價ヲ以テスルトキハ甚タ貴クナルナリ仍テソノ元價ヲ以テセスソノ揚リ額ヲ以テ見積ルト為シタリ

リノ揚リ高ハ八厘ノ利息ニ廻ハルトハ甚タ稀レナリ

元金千五百フランクナルトキハ七十五フランクニ至ラサレハ利息ノ高ニ至ラサルナリ

仍テ千五百フランクノ揚リ高ハ六十フランクナリト定ム

大抵四分餘ノ見積リナリトス

何レノ方法ヲ以テソノ揚リ高ヲ知ルヘキヤ監定人ヲ入レ、ハソレ丈ケリ入費モカルトナリ

司法省

揚リ高ヲ見定ムルニハ貸シテアル貸ノ高六十フランクナレハ千五百フランクト六十フランクニ満タサレハ以下ト定ムルナリ

以前ハ不動産ヲ人ニ遺ツテソノ代リニ年金ヲ取ルトア

リノ年金六十フランクニ満ツルトキハ千五百フランクト為シタリ

之レハ既ニ廢シタリ候シソノ唱呼ハ残りテアルナリ

家賃ノ高ヲ定ムルニハ即今貸シテアルニアラスタトヘハ本人ニテ住居スルトモ或ルトキ六十フランクニテ貸シタルトアルトキハ即千元金千五百フランクト為スナリ



リノ不動産ハ年金ヲ取りタルトモナク人ニ貸  
シタルトモナキトキハ評價人ハ法律上ニ於  
テ好マサルユヘソノトキハ些少ノモノニテ  
モ控訴ヲ為スコトヲ得ルナリ

動産ノコトハ書イテナシ何トナレハ貸ヲ取リテ  
人ニ借ス等ノコトナケレハナリ

動産ノコトニ付テ訴訟ヲ為スニハ原告人ニテ大  
凡ノ價ヲ立テ、訴ヘサルヘカラスソノ價千  
五百フランク以上ト見込ミタルキハ控訴ス  
ルコトヲ得ルト云ヒソノ以下ナルトキハ控訴  
スルコトヲ得ス

ソノ被告人ニテ價ニ付故障ヲ言ハサルトキハ  
何隻モナシ一故障ヲ述フルトキハ裁判所

司法省

ニテ評價人ヲ付ケルナリ

動産ノ價ハ見ヤスク不動産ハ見難キヲ以テ遠  
方マテモ検査ニ行クナレバ動産ハソノ面倒  
ナルコトハナシ

元來動産ニ付テモ詳カニ書イテ無カルヘカラ  
サルモノナレバ立方官ハ惣テ法律學者ニモ  
アラサルユヘ此ノ如キ裏面アリ日本ニテ立  
ツルトキハ精密ニアリ度キト思フナリ

終審初審ト云フハ裁判ニヨリテ極マルニハア  
ラス訴訟ノ金高ニヨリテ此ノ如ク定マルモ  
ノトス

縦令ハ二千フランクノ訴訟ヲ為スニ裁判ヲ為  
シテ千二百フランクヲ渡スヘシト云ヒタル



トアリ

具時ハ本額ヨリ少ナクナリテ控訴ヲ為スルヲ  
得サルトナルナリ

若シ之レヲ以テ如斯定ムルトキハ裁判官ハ裁  
カ裁判ヲ控訴セサル為メニ故意ニ本額ヲ少  
ナク裁判スルトアルヘシ

仍テ裁判言渡ノ額ニ関セス原告人ノ言立テタ  
ル額ヲ以テ始審終審ヲ定ムルナリ

惣テ金額ヲ計算スルトラ得サルモノハ控訴ヲ  
為スルヲ得ルナリ

ニ物ヲ托スル等ニ於テハ初ノヨリ價ノ定マ  
ラザルモノハ訴へ出ツルトキニ大抵ソノ價  
ヲツケテ出ス

司法省

契約ヲ為スニソノ損害ノ高ヲ見積リテ千五百  
フランクニ上レハ控訴ヲ為スルヲ得ル

家ヲ建ツルノ契約ヲ遂ケサルトキハソノ家ノ  
價トソノ違約ニツキ損害ヲ償トラ通算シテ

ソノ額ヲ以テ定ムルナリ  
家ナラハ家ノミナルトキハソノ家ノミヲ以テ

ソノ額ヲ定メソノ償ノミナルトキハ償ノミ  
ヲ以テ額ヲ定ムルトリス

貸金ノトニ付キ本金千四百フランクカ千四百  
フランクノ差引アルトキハ之レヲ分カツト

モ千五百フランクナルユヘ控訴セシメス  
千五百フランクノ訴訟ニツキ千五百フランク  
ヨリ多キ差引アルトキハ之レヲ許スナリ



此説善レ併レ此説モ法律モ區別ハナキナリ  
タトヘハ千五百フランクヘ千五百フランクノ  
差引アルトキハ原告被告トモ求ムル高ハ同  
レ故ニ終審トナス之レ法律ノ意ナリ  
タトヘハ原告ニテ千五百フランクノ訴訟ヲ為  
スニ被告人ニテ千五百フランクノ差引アリ  
ト云フトキハ法律ノ意ニヨリテ千五百フラ  
ンクノ求メトナシテ終審スルト虫厄ソノト  
キ戸一被告人ニテ我レハ借リタル覺ハナシ  
ト云ヒテ故障ヲ云ヒ且ツ我レヨリ千五百フ  
ランクノ貸アリト云フトキ裁判ノ上被告人  
ニテ二ツ負ケ借金ヲ払ヒ又我カ貸シタリト  
ノ説モ立タサルトキハ合セテ三千フランク

司法省

トナルナリ之レニ反シテ勝タルモ同レク二  
ツノ勝千トナルナリ故ニ法律ニモ前説ニモ  
裏面アリト我レハ云フナリ  
然ルニ之レハ我レ此論ヲ設ケタルモノナリ即  
チ初メノ説モ法律ノ意ニ基ツキテ為スヘ  
キナリ  
併レ此ノ如キトキハ二ツニ命ケレハ即チ千五  
百フランクツ、ノ争ヒトナル之レハ各別ニ  
訴ヘテ為スヘキモノナレトモ裁判所ニテハ既  
ニ持チ少シタルモノハ之レヲ裁判スルナリ  
之レハ入費ヲ省ク為ナリ  
之レハ一席ニ二ツノ訴訟ノ起リタルト見做ス  
モノナリ即チ被告ノマ、ニテ原告トナルナリ



タトヘハ甲一方ニテ二千フランクヲ訴ヘタル  
ニ乙ノ一方ニテハ千二百フランクハ差引ヲ  
訴ヘタリ此時乙ハニツ負ケ合三千二百フラン  
クノ負ケトナリタリ此時二千フランクノ  
控訴ヲ為スヲ得テ千二百フランクノ控訴  
ヲ為スヲ得サルヤ  
通常ナレハ千二百フランクノ控訴ヲ為スヲハ  
得ヘカラサルニ千フランク次千ヲ以テ千二  
百フランクノ差引ヲ為スハ前ニ説ク所口ノ  
千五百フランクツ、ノ控訴ハ出来サルハノ  
法律トハ相合セサルニアラスヤ  
然ラズソノ千二百フランクハ即チ初告裁判所  
ヘ出ラタルト同シト見做スナリ

司法省

此千二百フランクハ武器ト同シ控訴裁判所ヘ  
ハ出テタレトモ猶ホ此武器アリ以テ此訴訟  
ヲ防クナリト云フヘシ  
又タトヘハ甲ニテ千フランク求メタリ然ル  
ニ乙ニテ千二百フランクノ差引ヲ求メタリ  
此時甲ニテ千フランク勝千二百フランク  
之レニハ不服ナリ  
ソノトキハ甲ニテ千二百フランクノ控訴ヲ求  
ムルヲ得ヘキヤ  
他ノ例ヲ以テ前キノ譬諭ヲ解パントス  
タトヘハ甲ニテ千フランクヲ求メタリ然ル  
ニ乙ハ差引勘定ヲ求メス千フランクハ既ニ  
払ヒタリト云ヒタリソノトキハ甲ニテ未タ



千フランクノ不足ナルヲ以テ不服ナリトテ  
控訴スルニハ合セテ二千フランクヲ控訴セ  
サル可カラス

前ノ例ハ合セテ三千二百フランクトケテ持テ  
出スルヲ得ルナリ要之ニ先ニ云フ所ノ道理  
ト同レナリ

之レヲ控訴スルトモ控訴裁判所ニテリノ二千  
フランクノ勝テハ破毀ハセサルナリ初メ云  
ヒタル三千二百フランクノ一ハ之レヲ合カ  
テハ控訴ヲ為スルヲ得サルナリ

此三千二百フランクノ方ハ二千フランクノ勝  
テモ千二百フランクノ負モ合セテ不服ナリ  
ト云ヒテ三千二百フランクノ所口ニテ控訴

司法省

ヲ求ムルナリ

仍テ千五百フランクノ願ヒト利益ヲ合セテ千  
六百五十フランクトナル然ルニ裁判トナリ  
タルトキ之レハ無利益ノ貸金ナリト云ハ  
レタリトモ控訴スルヲ得ルナリ

千五百フランクヘ利益ヲ加ヘテ惣高トナスト  
キハ二千六百フランクトナルニテ控訴ヲ為  
スルヲ得ルナリ

此論ハ法律上ハ書イテナシ仍テ貴意ノ向フ処  
コトトナスナリ

併シ仙ニテ目下行フ所口ハ此ノ如シ

更ニ一例ヲ奉ケントス之レハ法律ニアリ千八  
百三十八年ノ命令ナリ



原告人アリテ訴訟ヲ為シタリ然ルニニ被告人  
ニテ徳ヲ損スルカ又ハ損害ヲ生シタリ  
此場合ニテ甲ヨリ訴ヘテ乙カ換ヲ為ストキナ  
リ

甲ニテ千二百フランクノ訴ヘテリ乙ハ損害ノ  
償ノ為メニ二千フランクヲ求メタリ

原告人ハ勝テ被告人ハ負ケタリ

原告人ノ負ケタルトキハ控訴スルヲ得ルト

虫尾被告乙ノ負ケタルトキハ控訴ヲ為スト

ヲ得ス被告人ニテソノ訴訟ニツキテノ損害

ノ償ヲ求ムルモノハ何程ノ額ニ止ルトモ控

訴ヲ許サ、ルヲト定メタリ之レハ控訴ニ上

ルヘキ金額ヲ作リテ訴フルノ幣ヲ防ク為メ

司 法 省

ニ立テタルモノトテ此ノ損害ノ償トハ全ク

主タル訴訟ヨリ生スル償ノ時ニ限ル可シ



司  
安  
省



訴 訟 法 會 議 筆 記

八 年 三 月 六 日

司 法 省



訴訟法會議筆記 八年三月十日

控訴ノ手續ツキノケ条ニ涉ル前ニ控訴ノ原因タルヲラ説カントス

初告裁判所ノ裁判官ノ至ツテ賢明ナル裁判ニモセヨ更ニ上等ノ裁判官ナラハ亦タ一層ノ明裁判ナラント望ムハ之レ人間ノ常態ナリ  
仏ノ諺ニ通常ノ裁判ニ於テ負ケタルモノハ不平ノ色アリト云フナリ

ソノ間ハ二十四時間ナリ之レヲ過クレハ少シク心思静定スルノ意アリ  
之レハ今日ノ諺ナリ併シ之レヲ裁判官ノ面前ニテ云フトキハ裁判官ヲ罵詈スルノ罪ニ諷ル

司法省

一ツノ控訴ヲ為スノ権アリテ上等ノ裁判所ニ訴ヘテ前裁判ノ不足ヲ補フハ善キヤ悪シキヤ

案スルニ之レハ悪シキト思フナリ

縦令ハ裁判所ナカルヘカラスト云ヒテ初告裁判所ヲ立テタリ初告裁判所ハ信用ナラスト  
シテ控訴裁判所ヲ立テタリ

此初告裁判所ハ此ノ如ク信用ナラサルモノナラハ信用ナルヘキ控訴裁判所ノ如キモノヲ立テタラハヨロシキニアラスヤ

千四百九十九ヲランクマテ又千五百ヲランクマテ控訴ヲ為ス  
千五百ヲランクヨリ以上ノモノハ控訴ヲ為ス  
千五百ヲ得ルトハ幸



不幸アリ且ツソノ金額ノ少キハ貧人ナリ  
多キハ富人ナリ金額ノ少キ貧者ハ不幸ニ  
シテ多キ富者ハ幸ナリ  
且貧者ノ少キ金額ト富者ノ多キ金額トハソ  
ノ金ノ貴キトハ同シトナリ  
元來控訴スルヲ得サルトナレハ裁判官モ注  
意スルナレトモ控訴スルヲ得ルトナレハ裁  
判官モ自然ニ不調ノヲアルヘシ  
如レソノ初告裁判所ノ裁判ニ不服アリトモ之  
レヲ控訴スルトモハ入費モ掛ルニハ不服ナ  
カウ控訴ヲ為サ、ルモノモアルヘシ裁判官  
モ控訴ヲ為サ、リレトナラハ最一層注意ス  
ヘカリレト思フモノアルヘシ

司 法 省

人々自カラ思フニ控訴裁判所ハ裁判官ハ七人  
アリ  
年長ニシテ學問アリ初告裁判所ハ三人ニシテ  
且年モ弱カシ學問モ淺シ  
仍テ控訴裁判所ハタシカナリト云フモノアリ  
真ニ此説ノ如シ併シ如シ此ノ如キヲ以テセ  
ハ控訴裁判所ヨリ始メテ初告裁判所ニ及フ  
方ヨロシカラシ  
佛ニテハ一郡コトニ初告裁判所アリ二三州コ  
トニ控訴裁判所アリ仍テ裁判所ヲ少ナクシ  
テ一所ノ裁判所ニ裁判官ヲ多クナス方ヨロ  
シト思フナリ  
目下仏ニテ控訴ヲ許スノ弊ヲ言ハン



如シ初告裁判所ニテ裁判シタルモノ控訴スル  
トキ双方言合ハセテ同シ裁判ヲ為シタルト  
キハリノ裁判ハ違ヒハナシト思フナリ  
之レニ反シテリノ裁判ノ違ヒタルトキハ更ニ  
上等ノ裁判所ナカルヘカラサルナリ

伊太里亞ニテ法律家ノ集會ヲ為シタルトキノ  
説ニ今云フ所口ノ控訴ノ不都合ヲ云ヒタリ  
又初告ト控訴ト同シキトキハヨロシト堂ニソ  
ノ違ヒタルトキハリノ裁判ヲ調査スル更ニ  
上等ノ裁判所ナカルヘカラスト云ヒタリ  
又一説アリ之レハヨロシト思フナリ

司 法 省

一ツノ初告裁判所ニテ裁判シタルモノヲ直ニ  
ニ控訴セシメス同等ノ初告裁判所ニ移シテ  
裁判ス若シソノ裁判ノ同シキトキハ控訴セ  
スソノ違ヒタルトキハリノ時ニ控訴スヘシ  
トノ説ナリ

リノトキ控訴裁判所ニテ何レニカ付クヘシ初  
メノ裁判カ又ハ後ノ裁判カニ付キタルハ  
控訴裁判トモニ二ツノ説トナルユヘ先ツ過  
ナノトキモノト見ルナリ

右ノ仕方ナルトキハ初メノ裁判ニテモ同シ等  
ノ所口ヘ移サルトキハ精神ヲ出シテ之レ  
ヲ為ス後ノ裁判所ニテモ彼レハ何レノ裁判  
ヲ為シタリマト競ツテ取調ルナリ

控訴裁判所へ直ニ出ストハ大イニソノ精神  
ノ入レ方ハ透フモノナリ



仏ニテモ之レニ同シキトアリシナリ  
千八百五十六年六月十三日マテ刑吏ニ付テ殆  
ント同シトアリタリ今ハ廢シタリ

初告裁判所ニテ刑吏ノ裁判ヲ為シタトヘハ又  
牢ヲ命シタル等ノトキ直ニ控訴セスレテ  
ソノ近邊ノ同等ノ裁判所ヘ出シタリ

ソノトキ隣郡ノ刑吏裁判所ニテ更ニ之レヲ裁  
判ス

ソノ裁判ハ同シケレハヨロシ併シ透フトキハ  
透ヒタルマニテ即チ確定ノ裁判トナルト  
ナリシ

今控訴ノトヲ説キタルトハザシク違フナリ  
伊ニテ言ヒタルモノハ違ヒタルトキハ控訴ス

司法省

ル今ノ刑吏ノトハ透ヒタリトモ確定トナル  
ノ違ヒナリトス

前キニ云フ所口ハ宛カモ監定人ヲ用ユルカ如  
シ

先ツ一人ノ監定ヲ用ヒタリ之レヲ不服ナリ  
ト  
カナラストシテ更ニ一人ヲ用ヒタリソノト  
キ説ハ分カレタリ仍テ三人目ノ監定人ヲ用  
ヒタリ

裁判モ之レニ同シ

以上ノ論ハアリト雖モ歐洲一般ニテハ初告裁  
判所ニテ不服ナルトキハ控訴セシムルヲ通  
例トス

併シ道理ニ於テハヨロシカラスト思フナリ



今日ノ執行スル所口ハ控訴裁判所ニテ初告裁判所ト同シキトモ違フトモ控訴裁判所ノ裁判ヲ以テ確定ナリトス道理ニ於テハ如何  
案スルニ一州毎ニ五人ノ裁判官ヲ置キテソノ法律ノ不申明ナルヲニ付テハ大審院ニテ之レヲ検査スルヲト為シタラハヨロシカルヘ

問 千五百フランク以上以下ヲ以テ権限ヲ定メタルソノ道理ハ如何

答 瑣細ノ事ハ許サスト為シタルハソノ繁雜ヲイトフユヘナリソノ所要不所要ハリノ貧富ニヨリテ立ツルトキハ弊十キトナルヘキナレトモ立法官ハ其邊注意ナカリシナルヘ

司法省

レ  
右モ顧ニ高ヨリハ入費ノ多クナル弊ヲ矯メタルナリ

併シ之レハ裁カ意ニハ反スルナリ

何トナレハ千圓ノ訴訟ニ千圓ノ入費ヲ掛ケタリトモ勝ケタルトキハ入費ヲ免セテ先方ヨリ之レヲ取ルナリ

如シ負ケタルトキハ致シ方ナシ  
以上本条ニ移ル

第三卷

第四百四十三條 千八百六十二年五月三日如左改ム控訴ヲ為ス可キ期限ハ二ヶ月内ナリトス但シ其期限ハ原告被告双方共ニ初告裁



判所ニ出席シテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡書ヲ一方本人又ハ其住所ニ送達シタル日ヨリ之ヲ数フ可シ

一方ノ者抗傳シテ初告裁判所ノ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得サルニ至リシ日ヨリ之ヲ数フヘシ

然ニ控訴ノ被告人嘗テ初告裁判所ヨリ得タル言渡書ヲ控訴ノ原告人ニ送達シ其被告人後ニ控訴ヲ為ス可キ旨ヲ別段其言渡書ニ付

記セサルト虽モ二ヶ月ノ後ニ至リ其原告人ノ主タル控訴ヲ為ス間何時ニ限ラス其被告人附帯ノ控訴ヲ為スヲ得ヘシ

第四百四十四条 前条ニ記シタル二ヶ月ノ期  
司法省

限ヲ過クル時ハ控訴ヲ為スヲ得ス又如何ノ者<sup>公舎會社知者治産アリ</sup>控訴ト虽モ其期限ノ後ニ至テハ控訴ヲ為スノ權ヲ失ヒ唯己レノ支配人及ビ後見人ニ對シテ償ヲ得ントスル訴ヲ為スヲ得可シ但シ知者ニ付テハ其後見人ノ監察者初告裁判所ノ訴訟ニ自カラ管セザリシ時ト虽モ其裁判所ノ言渡書ヲ監察者ト後見人トニ送達シタル日ヨリ其期限ヲ数フ可シ

第四百四十五条 千八百六十二年五月三日如左改ム佛蘭西ノ本国外ニ住スル者ハ控訴ヲ為スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ二ヶ月期限ノ上更ニ第七十三条ニ



記シタル被告人呼出ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ  
第四百四十六條 千八百六十二年五月三日如  
左改ム公務ノ任ヲ受ケタルニ因リ仙蘭西ノ  
本国外又ハアアルセリトノ地外ニ在ル者ハ控  
訴ヲ為スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達  
ヲ得タルヨリ二ヶ月ノ期限ノ上更ニ八ヶ月  
ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ又航海ノ為ノ外国ニ  
在ル海客ニ付テモ同上猶豫期限アリリス  
第四百四十三條ヨリ第四百四十六條マテ  
ハ控訴ノ期限ヲ去ヒタルモノナリ  
近頃マテハ三月十日カ午千八百六十五  
年一月 日ヨリ二月十日ナリ  
ソノ所以ハ往復ノ自由ニナリタルユヘテ  
司法省

手簡往復又ハ自カラ出掛ケルトモ自由ナ  
ルユヘナリ  
一郡中ヨリ控訴裁判所へ出ルニハ二月  
ニテ足レリ  
ソノ起算ハ何時トナルニ裁判言渡ノ日ヨ  
リスルニアラス  
ソノ言渡書ヲ本人ノ住所ニ送達シタル日  
ヨリ起算スルナリ  
タトモ出席裁判ニシテ本人ノ居ルトキナ  
リトモ言渡ノトキ本人直ニ之レヲ承  
知シタリシトテ起算セス必ラスリノ送達  
ヲ受ケタル日ヨリスルナリ



裁判言渡書ヲ代書師ニ渡スハ本人ヨリ先  
キニ為ス此時ヨリ起算セス必ラス本人  
へ送達シタルトキヨリナリ

欠席裁判ニテ言渡サレタルモノハ故障ノ  
日限ノ切レタル日ヨリ起算スルナリ

初告裁判所裁判ニ付キ何レカ一方ノモノ  
・不服ナルトキ一方ニテ控訴スルキハ

他ノ一方ノモノニテ控訴ヲ為スヲ得  
ルナリトキハソノ双方ノ期限ハ違フナ  
リ

原告人控訴ヲ為スニハ二ヶ月間ニ之レヲ  
為サ、ルヘカラスソノ被告人ノ控訴ヲ

為スニハ原告人ノ控訴ノ未ダ裁判言渡  
司法省

トナラサル間ハ何時ニテモ控訴スルヲ  
得ルナリ

一方ノモノ、控訴ハ二ヶ月目ノ三十日四  
時過キニ控訴ヲ為スト云ヒ送りレトキ

被告人ニテ控訴ヲナスヲ得サルナリ  
テハ惘然ナルナリ

何ノ為メニ被告人ニ無限ノ期ヲ与ヘタリ  
マトナルニ原告人ニテ詐偽ヲ為ス為メ

ニ我カ控訴期限ヲ尽クルナリ仍テ之レ  
ヲ防ク為メニ立テタルモノナリ

タトヘハ双方ニ付テ二ヶ月ノ訴訟ヲ為ス  
ニ双方トモ千四ツ、勝千タリソノ片原

告被告トモニ不服ナリ俛レ被告人ハ原



告ニテ忍フナラハ忍フ積リナリ然ルニ  
原告人ニテ控訴ヲ為シタリ仍テ止ム  
ヲ得ス被告人ヨリモ控訴ヲ為シタリ  
然レヒノ一項ハタトヘハ初告裁判ニテ甲  
原告人ナリ乙ハ被告人ナリ通常ナレハ  
原告人ニテ不服ナルトキハ此訴訟ハ控  
訴ヲ為スヘシト言渡書ニ附記スルナリ  
然ルニ附記セスレテ送達シタリナリト  
キ被告人ニテ控訴ヲ為シタリ然ルニ原  
告人ニテハ裁レハ元トハ控訴ヲ為サハ  
ル積リナリレカ君カ訴訟ヲ為スカラハ  
裁レモ控訴スヘシト云フトキノナリ  
控訴スヘシト思フ不服ナルトキハ原告

司法省

人ニテ言渡書ヘ控訴スヘキ旨ヲ附記シ  
テ被告人ニ送達スルハ通例ナリ之レハ  
訴訟法中何レノ所口ニモ書イテハナシ  
旧キ訴訟法ノ中ニアルナリ  
タトヒ附記シテ送達シタリトモ必ラス控  
訴ヲ為スニモ及ハス後ニ之レヲ止ムルモ  
勝午ナリリノ附記スルハ只モ被告人ヘ  
不服ノ意ヲ知ラレムル為メナリ



司法省



訴訟法會議筆記

癸卯三月廿五日

司法部



訴訟法會議筆記 八年三月十五日

主タル控訴ト附帶ノ控訴ノ付少シク説ク  
可クアラントス

主タル控訴ハ負ケタリトモ勝手タリトモ原告

ニモセヨ被告ニモセヨ先キニ控訴セシモノ

ヲ主タル控訴トナス後ニ訴ヘタルモノヲ附

帶ノ控訴トス

元來被告ニモセヨ原告ニモセヨ不服ノモノヨ

リ控訴スルナリ

仍テ原被トモ不服ノ付アリ原告人モ未ナラ得

ス被告人モ防キ切レ双方トモ不服ニテ控訴

スル付アリ

ソノ時何レニテモ先キニ訴ヘタルモノヲ主タ

司法省

ル控訴トナス

ソノ一方ニテハ不服ナレバソノマ、ニシテア

ルトキ乙ノ一方ヨリ控訴ヲ為レタルニツキ

餘義ナク甲ノ一方者ヨリ控訴シタルモノヲ

附帶ノ控訴トナス

勝訴訟ノ者ヨリ裁判言渡書へ此付キテハ

不服ナルニ付キ控訴ヲ為スヘキ付ヲ附記シ

テ送達シタル氏ハ控訴ヲ為ス付ヲ得ルト虽

氏万一之レヲ附記セサルトキハ控訴ヲ為ス

付ヲ得ス

之レハ当然ナル付ナリ然ルニ乙ノ一方ヨリ控

訴シタリソノトキ甲モ控訴スヘレト云ヒテ

控訴スル付ヲ得ルナリ



リノ附帶ノ控訴ハ二ヶ月ノ期限ノミナラスソ  
ノ主タル訴訟ノ裁判ヲ言渡スマテハ控訴ス  
ルヲ得ル

之レハ驚クヘキカ如シト虽モ万一控訴ヲ為ス  
モノニテ二ヶ月ノ終リノ日ニ控訴ヲ為スト  
キハ既ニ明日ハ控訴ヲ為スヲ得サルエヘ  
之レヲ許スハ亦当然ナルヲナリ

此事既ニ過日説キタルモ更ニ説キ返シタリ  
以下モ控訴ノ期限ヲ説クナリ  
リノ期限ノ起等ハ言渡ノ日ヨリスルニハアラ  
ス言渡書ヲ送達シタル日ヨリ起等スルナリ

仍テリノ二ヶ月ハ道路ノ距離ニヨリテ延ビル  
ナリ  
ナリ

司法省

第四百四十四條 前条ニ記シタル二ヶ月ノ期  
限ヲ過クル時ハ控訴ヲ為スヲ得ス又如何ナ  
ル者<sup>邑、公、舎、會、社、如、此、等、</sup>控訴<sup>ノ</sup>後ニ至テハ控訴ヲ為スノ權ヲ失ヒ唯己レノ支  
配人及ヒ後見人ニ對シテ償ヲ得ントスル訴ヘ  
テ為スヲ得可レ但シ幼者ニ付テハ其後見人  
ノ監察者初告裁判所ノ訴訟ヲ自カラ管セサリ  
シ時ト虽モ其裁判所ノ言渡書ヲ監察者ト後見  
人トニ送達シタル日ヨリ其期限ヲ數フ可レ  
此条ニ言フ所口ハ二ヶ月ヲ過クレハリノ期  
限ハ決シテ取返スヲ得サルトアリ  
之レハ旧法ヲ一寸顯ハシタルモノナリ



旧法ハ洪水又ハ種々ノ天災等ノ如キ事ニ付  
テハ期月ヲ延スルヲ得タリシカ今日ハ何  
事アリトモ之レヲ延スルヲ得サルト  
ス

又何人ニ於テモ同シ

旧法ハ幼年又ハ婚姻ヲ為シタル婦等ハ都合  
ニヨリ延ハスルヲ得タリシナリ併シ今日  
ハ惣テ同シ

旧法ハ海陸軍人ノ為メ又ハ外国へ派出スル  
公使等ノ為メニ期月ヲ延シタリシカ今日  
ハ同シ

旧法ハ不能カリモノニハ期滿免除ハ中止ス  
ルナリシカ今日ハ期滿免除モ延ビサル

司法省

ナリ

不能カリモノ、為メニ八十年以上ノ期滿免  
除ハ中止スルトモ五年以下ノモノハ中止  
セス

此条ノ大意ハ二ヶ月ヲ過リレハ何人タリト  
モ控訴ノ期限ヲ延ハスルヲ得ス併シ支配  
人又ハ代理人ニ對シテ其代償ヲ求ムル  
ヲ得ルト云フナリ

如シ知者ノ為メニ裁判ヲ言ヒ渡サレタルト  
キ二ヶ月間ニ控訴ヲ為サ、ルトキハ控訴  
ヲ為スルヲ得サルナリ知者ヨリ後見人  
ニ對シテ償ヲ求ムルヲ得ル

婦ニ於テモ夫ニ償ヲ求ムルヲ得ル



治産ノ禁モ同シ

如者ノ為ニハ少シク區別アリ

如者ノ種類ヲ分ツラニツトス

第一両親ノアル如者第二後見ノアル如者

両親ノアル如者ニハ別テ後見人ハナシ

リノ如者ノ財産ヲ支配スルテ両親ニテ為ス

ハ後見人ヨリハ仍ホ慥カナリトス万一面

親ノ内一人死去スルトキハ残りタル一ツ

ノ親ニテ支配スルナリ

後見ノアル如者ニモセヨ両親ノアル如者ニ

モセヨ後見ヲ免カル、テ得ル

一ツハ親ヨリ明許ヲ以テ免レシム一ツハ親

族ノ會議ニヨリ免レシムナリ

司法省

如レリノ後見ヲ免カレタルトキハ半不能カ

ノモノトナル

如者婚姻ヲ為ストキハ後見ヲ免カル、ナリ

リノ婚姻ヲ為サストモ免カル、ナリ此時

ハ治安裁判所へ届ルナリ

如レ後見ヲ免レタル如者ニ裁判言渡アリタ

ルトキ控訴ヲ為スマヤ為サ、ルマハリノモ

ノ、意中ニアリ之レヲ為サスレテ二ヶ月

ヲ過レタルトキハソレ切リナリ

民法中ニ後見ヲ免カレタル如者ノ訴ヘテ為

スノ法律アリ不働産ニ付テハ親族會議ノ

許諾ナケレハ為スナラ得ス

働産ナレハ自カラ為ス



何レノ場合ニテモ被告人ト为ルヲ得ルト  
虽トモ許諾ナケレハ原告人ト为ルヲ得  
ス

人権ニモセヨ不動産ニモセヨ許諾ヲ得テ原  
告人トナリタリトモソノ控訴ヲ为ストモ  
之レヲ为サ、レハソレ切リナリ

後見ヲ免カレタル知者ハ初告裁判所ヘナリ  
控訴裁判所ヘナリ訴ヘヲ为スハ自由ヲ为  
スト見做レテ更ニ監定人アリト为サス

後見ヲ免カレサル知者ハ自カラ訴訟ヲ为ス  
トハ見做サス必ラス後見人アリト为ス  
ソノ人ハ知ナリヤ又ハ學校ニ居ルヤモ知  
ルヘカラス

司法省

後見ヲ免カレサル知者ノ全ク気ノ付カサル  
ノ害ヲ免カル、为ノニソノ言渡書ヲソノ  
後見人ヘ送達スルヲトス

万一後見人ニ送達セタル上ニテ控訴ヲ为サ  
、ルトモハソノ期限ハ全ク消滅スルモソ  
トス

如シ後見人并ニ監定人ハソノ期限内ハ控訴  
ヲ为サ、ルトモハ知者ヨリソノ人ニ對  
シテソノ價ヲ求ムルヲ得ル

之レハ丁年ニ至リシ後ナリトモ又ソノ特別  
段ニ立テタル後見人ヲ以テスルトモ勝手  
次第ナリトス

日本ニテ法律ヲ立ツルトモハ全ク知者ノ为



ノニ別段ニ立ツルカ又ハ仏ノ法律ノ如ク  
各処ニ散出スルカ何レカ可ナルヤ

仏ノ法律ノ立テ方ハ不都合多シ知者ノ初告  
裁判所へ訴フルトハ民法ニアリ控訴ノト  
ハ此訴訟法ニアル如キ之レナリ

後見人ニ對シテ償ヲ求ムルノ訴ノ期滿免除  
八十年ナリソノ起算ハ丁年ニ至リシ後ヨ  
リ算ス

後見ヲ免カレタル知者モ同シ

而親ノアリテ後見ヲ免レシムルハ男セトモ  
十五年ヨリ

而親ノナリシテ親族會議ニテ免カレシムル  
八十八年ヨリ

司法省

而親ナレハ何ノ為メニ早クナストナレハ一  
旦免カレシムルトモ即チ兩親ハ監視スル  
ナリ親族ナレハ早ク免ルニテ我カ予ヲ按  
クノ弊アリ

併シ十五年ニテ免カレシムルトハ甚ク稀ナ  
リ

洪水ニテ二ヶ月過リルトハ一切ナレ故ニ新  
法ニハ之レヲ除キタリ

只々軍ノ発リタルトキハ之レヲ延ハスナリ  
之レモ裁判所ニテ延ハスナラ得ス其時ニ  
當リ特別ノ法令ヲ以テ二ヶ月ヲ延ハスナ  
ラ布告スルナリ此布告ニテタトヒ二ヶ月  
ト云ヒタリトモ軍ノ治マルマテハ延ハス



ナリ

是レ控訴ノ期限ノミニアラズ民法ニアル所  
口ノ期滿免除トモ惣テ延ビルナリ

第四百四十五條 (千八百六十二年五月三日如  
左改ム) 仏蘭西ノ本国外ニ住スル者ハ控訴ヲ為  
スニ付初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タルヨ  
リ二ヶ月ノ期限ノ上更ニ第七十三條ニ記レタ  
ル被告人呼出ノ猶豫ノ期限ヲ得可シ

此条ハ第七十三條ヲ見合ハスルト書イテ  
アリ西ナレハ何日南ナレハ何日喜望峰ヲ  
廻ハレハ何日ト書イテアル所ト同シ猶  
豫ノ期限ヲ與フルトス  
若シ日本ニテリノ期限ノ猶豫ヲ定ムルニハ

司法省

歐洲ハ暫ラク置キ南アメリカノスタリ  
ヤ等ノ通路ノ難キ所口ハソノ難キニ付テ  
期限ヲ立テサルヘカラス

第四百四十六條 (千八百六十二年五月三日如  
左改ム) 公務ノ任ヲ受ケタルニ回リ仏蘭西ノ本  
国外又ハアルセリトシノ地外ニ在ル者ハ控訴ヲ  
為スニ付キ初告裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タ  
ルヨリ二ヶ月ノ期限ノ上更ニ八ヶ月ノ猶豫ノ  
期限ヲ得可シ又航海ノ為ノ外国ニ在ル海客ニ  
付テモ同上訴訟ノ期限アリトス

之レハ公務ノ任ヲ受ケタル人ノ控訴ヲナス  
トキノトラ云フ之レハ仏国ニモ居ラス又ア  
ラセリト云フ属国ニモ居ラス外国ニ居ル



ルトキハ八ヶ月ノ猶豫ヲ與フルトラズ  
フ

併シ外国ハ何レモ八ヶ月トハ理ニ当ラス  
タトヘハ隣国ノ「スエス」ニ居ル公使モ日本ニ  
居ルモ同シ

案スルニ第四百四十五條ニ記シタルモノヘ  
一倍ノ日數ヲ加ヘタラハ宜シカラシカ  
然ラハ「スエス」ハ二月日本ハ十六ヶ月トナ  
ル

又航海ヲ为メ外国ニ在ル海客ニ付テモ云々  
ハ官負ニハアラス私用ノ为メニ航海スル  
モノナリ之レモ同前ニテ仏ノ近海ニアル  
モノモアルヘシ

司法省

航海者ニ猶豫ヲ與フル「官負」ニ同シキハ当  
然ナル「ナリ」何トナレハ航海ハ国ヲ富人  
为メニ为スモノナレハナリ

政府ノ軍艦ニ乗ルモノモ同シ  
公務ノ为メ外国ニ在ルモノハ本務アリテ傍  
ラ私負ノ訴訟ヲモ为メモノナルユヘ平人  
ヨリハ少シク猶豫ノ期限ヲ多クスル方然  
ルヘク歟

「マラツク」ノ海峡ヲ過キタルモノハ八ヶ月ハ  
平人ノ为メニハ長キニ過キ官負ノ为メニ  
ハ短カキニ過クルト思フナリ

第四百四十七條 控訴ヲ为ス可キ期限ノ經過  
ハ初告裁判所ニテ負訴訟トナシシモノハ死去



レタル日ヨリ之レヲ止ム可シ

其期限ハ第六十一条ニ記シタル法式ヲ以テ死者ノ住所ニ初告裁判所ノ言渡書ヲ更ニ送達シタル時ヨリ再ニ之レヲ等ヘ始ム可シ但シ死者ノ遺物相続人目録ヲ記シ熟考ヲ為ス可キ期限ノ終ラサル前ニ更ニ其言渡書ヲ送達シタル時ハ其期限ノ終ル時ヨリ再ニ控訴ノ期限ヲ等ヘ始ム可シ

初告裁判所ノ言渡書ヲ死者ノ住所ニ更ニ送達スルニハ遺物相続人ノ各時ノ姓名及ニ身分ヲ記スルヲ十ク其連名宛ヲ以テ之レヲ為スヲ得可シ

之レハ初告裁判所ニテ負訴訟トナリタルモ

司法省

ノハ死去シタルトキハ控訴ノ期限ハソノ死去シタル日ヨリ中止スルナリ

ソノ後目録ヲ記熟考ヲナスヘキ三ヶ月四十日ヲ過キタル後ニ更ニソノ裁判言渡書ヲ送達スルナリ

ソノ送達シタル日ヨリ再ニ控訴期限ノ日数ヲ數ヘ繼クヘキナリ

此条ハ實ニ不幸ナル条ナリ死後相続ヲナシタルモノハ多少愁傷ノ情アリテ訴訟ノヲ考フルトハ六ヶレキナリ

然ルニ前ニ二十日ヲ過クレハ更ニソノ後ノ數ヘ繼クハ二十一日ニ救フルトナルユヘ時ニヨリテ控訴ノ期限ヲ過クルトアルヘ



レ

仍テ親ノ死シタルトキハ再ヒ二ヶ月ト為シ  
タラハ宜シカラシム

或ハ親ノ生前ニ期限三十日ヲ過キサルトキ  
ハ更ニ一ヶ月ヲ與フル方可然歟

タトヘ四十日ヲ過タラハ更ニ二十日ノ猶豫  
ヲ與フルカ如キ之レナリ

相続人ニ對シテハ三ヶ月四十日ノ猶豫ヲ与  
フルトユヘ随分寛大ナルモノ、如シトモ

トモ相続ヲ為スヤ為サ、ルヤノ思考ヲ為  
スニ付テハ擅訴ノ下ヲ思考スルニ暇アラ  
サルナリ

第三項ニ言フ所ノ言渡ヲ送達スルニ相続

司法省

人中ト書イテ姓名ヲ書カスニ之レヲ送達  
スルトモ苦シカラス然ルニ之レヲ各自ニ  
一人ツ、宛テ、送達スルトキハ万一頁ケ  
タルトキハ訴訟入費ノ多クナルユヘ便益  
ヲ失ハシム



司法省



第三十八号

訴訟法會議筆記

八年三月廿日  
第三十八号

司法部



訴訟法會議筆記

八年三月廿日

第四百四十八條

初告裁判所ニテ贋造ノ証書

ニ據リ裁判言渡ヲ為シタル時又ハ一方ノ者具  
相手方ノ為メニ己レノ証書ヲ陰藏セラレ之ヲ  
差出スコトヲ得サルニ因リ初告裁判所ニテ負訴  
訟トナリシ時ハ後ニ其相手方其証書ノ贋造ト  
ルコトヲ自認シタル時又ハ裁判所ニテ其贋造ト  
ルコトヲ証シタル時又ハ相手方ノ陰造シタル証  
書ヲ取返シタル時ヨリ控訴ノ期限ヲ算フ可シ  
但シ相手方ノ陰藏シタル証書ヲ取返シタル時  
ハ之ヲ取返セシ日ヲ証明スルヲ得可キ証書ア  
ルコトヲ必要トス

第四百四十八條第四百十九條ハ控訴ノ期

司法省

限ヲ云フモノナリ

之レハ別段ナルコトヨリテ控訴ノ期限ヲ起算  
スルコトヲ云フモノナリ

此条ハ裁判中ニ贋造ノ証書タルコトヲ見出ス  
コトヲ得サル為メニ負ケタリシノ後贋造ナル  
コトヲ見出シタル日ヨリ控訴ノ期限ヲ起算ス  
ルコトヲ云フモノナリ

此所コハ宜シク區別セサルヘカラス

裁判中ニ贋造ナリト見出シタルトキハソノ  
贋造ヲ以テ裁判セシトキハソノ言渡書ヲ送  
達セシ日ヨリ起算スルト雖此所コハ裁判  
中ニハ贋造ナルコトハ知ラスレテ後ニ  
見出シタルトキコトナリ



併し知レタルノミニテハナラス即ち知レタル  
ル處ヨニテ裁判ヲ受ケサルヲ得ス之レハ他  
ノ条ニ書イテアルナリ

第二節ハ慥カナル証書アリテモ相手方ニテ  
押ヘタルニツキ之レヲ出スコトヲ得サルトキ  
ノコトナリ

ソノ証書ノ予ニ入りタル時ノコトナリ  
其時ハソノ予ニ入りタル証書ヲ立テサルヘ  
カラス

証ヲ立ツルハ人ニテハナラス必ス書付ヲ以  
テ証ヲ立テサルヘカラス  
如斯書物ヲ以テ証ヲ立ルコトニナレタルハ既  
ニソノ証書ノ予ニ入りテモ之レヲ出サスレ

司法省

テ控訴ノ期限ヲ延ス等ノ詐偽アルヲ防ク為  
メナリ

其書付ヲ一方ノ者へ送達スルニテ是レリ如  
シ故障アレハ裁判ヲ乞フナリ  
之レハ一般ノ公益ニ関スルコトナリ一方へ送  
達スルニテ是レリト虽モ時ニヨリテ裁判所ニ

テソノ書付ヲ一覽スルコトヲ望ムコトモアルヘ  
シ

此自認スルニハ限リナレ三十年ヲ過キタリ  
トモ宜シ  
法律上ニテ誤マリテ改正スルコトニ付テハ期  
満免除ニ関係セサルナリ

既ニ控訴スヘキニヶ月ノ期限ヲ破ルニ於テ



八三十年期限ニハ関係セス

第四百八十八条ヲ参照スヘシ

第四百四十九条 假ニ執行ヲ可キモノニ非サル  
ル初告裁判所ノ言渡ノ控訴ハ其言渡ノ日ヨリ  
八日内ニ之ヲ為ス可カラス若シ其期限内ニ為  
シタル控訴ハ控訴院ニテ之ヲ取上ケサル可シ  
但シ猶ホ控訴ヲ為サント欲スル者ハ之ヲ為シ  
得可キ期限内ニ更ニ控訴ヲ為スヲ得可シ  
第四百五十条 假ニ執行ヲ可キモノニ非サル  
初告裁判所ノ言渡ハ前条ニ記スル八日ノ期限  
間其執行ヲ延ハス可シ

此条ハ控訴ハ言渡アリテハ八日内ニハ決シテ  
為スヘカラスト云フヲナリ

司法省

之レハ頁訴訟ノモノハ怒氣アルモノナリソ  
ノ怒氣ヲ帯ヒテ控訴ヲ為シソノ為メニ再ヒ  
負クルヲアルヲ防クモノナリ

控訴期限ハ言渡書ヲ送達シタルヨリ二ヶ月  
ナリ然ルニソノ送達スルニハ寫ラ作ル等ノ  
手教ノカ、ルモノニテ八日内ニハ實際ニ於  
テ出来サルモノナリ

八日内ニ控訴ヲ為シタルキハ控訴裁判所ニ  
テハ押シ返スナリ

ソノ控訴人ハ二ヶ月間ニ再ヒ控訴スルナリ  
負ケタルモノハ八日内ニ控訴ヲ為スヲ得  
ス又勝ケタルモノニテモ八日内ニ執行スル  
ヲ得ス是レ同シ權衡ナリ



假ニ執行スヘキ訴訟ハ控訴モ直ニ爲ス  
ヲ得ルナリ  
ホアリナード案スルニ八日内ニ控訴スル  
ヲ得スト書イテアルハ本人ノ後見ノ如  
キモノナリ豈ニ奇ナラスヤリノ本人ノ心次  
第ニテ可ナルヘキナリ  
法律ハ一ツノ定メナリ用ヒテ是ラサルモ用  
ヒ過クスモソノ人ニ存スルナリ  
控訴ハ爲シ始メタリトモ之レ遂ケサルヘカ  
ラスト云フニアラス何時ニテモ思ヒキト思  
フトキハ之レヲ止ムルナリ得ヘシ

然ラハ此条ヲ立ツルニ及ハスト思フナリ

第四百五十一条 訴訟ノ本案ニ管セサル預審

司法省

ノ裁判言渡ノ控訴ハ確定ノ言渡ノ後其確定ノ  
言渡ノ控訴ト共ニ之ヲ爲ス可ク且其控訴ノ期  
限ハ確定ノ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ  
之ヲ數フ可シ但シ其預審ノ言渡ノ執行ヲ受タ  
ル時後ニ控訴ヲ爲スナアル可キ旨ヲ断リ置カ  
スト魚モ控訴院ニテ其控訴ヲ取上ク可シ  
本案ニ管ス可キ預審ノ言渡ノ控訴ハ確定ノ言  
渡ノ前ニ之ヲ爲スナリ得可シ又假ニ執行ス可  
キ言渡ニ付テモ確定ノ言渡ノ前ニ其控訴ヲ爲  
スナリ得可シ  
第四百五十二条 訴訟ヲ吟味シテ確定ノ裁判  
ヲ爲スヲ得可キニ至ラシムル手續ニ付テノ言  
渡ヲ本案ニ管セサル預審ノ言渡トス



裁判所ニテ確定ノ裁判言渡ヲ為ス前證<sup>書</sup>ヲ以テ  
證ヲ立ツル事書類ノ驗真ヲ為ス事又ハ其他本  
案ニ管スル吟味ノ手續ニ付キ為シタル言渡ヲ  
本案ニ管スル預審ノ言渡トス

裁判言渡ノ下ヲ説キタル時ニソノ言渡レニ  
區別ノアル下ヲ言ハサリシナリ

確定ノ裁判トナル以前ニ本案ニ管セサル裁  
判アリ

之レマラ説キタルモノハ確定ノ裁判ノ下  
ナリ

此処ハ本案ノ確定裁判ヲ為ス前ニ裁判スル  
下ナリ

之レヲ分ツテ三トス又三ツノ名アリ

司法省

セジユマンパレパラトワール(預備<sup>被告</sup>人呼  
出<sup>裁判</sup>言渡)

アインラーロキエトワール(預審<sup>裁判</sup>手續<sup>全</sup>ク<sup>整</sup>キ  
ハタル間ニ<sup>裁判</sup>意<sup>判</sup>)

ソノ區別ヲ説カントス

預備ノ裁判言渡ハ格別肝要ナルモノニアラ  
ス本案ヲ裁判スル預備ヲナスモノナリ

之レハ訴訟ヲ為ス本人ヲ呼ヒ出スト云フ言  
渡ヲ為ス下ナリ

假ノ裁判言渡ハ本案ニ管セサル裁判ノ言渡  
ナリ

タトヘハ婦ニテソノ夫ヲ訴ヘタルトキソノ



本案ハ未タ裁判セサル間ニ別居中ノ養料等  
ノ裁判ヲ言渡スルナリ  
タトヘハ被告人ノ手ニ物件アルトキソノ本  
案ノ裁判ヲ為ス前ニソノ物件ノ減盡スヘシ  
ト思考スルキ之レヲ他人ヘ預ケル言渡等ナ  
リ  
ソノ裁判言渡ニ付テハ直ニ執行スルナリ  
得ルマ又ハ直ニ控訴スヘキマ又後ニ控訴  
スルナリ得ルマヲ書イテナキエヘ之レハ直  
ニ控訴スルナリ得ルト為ス  
第一ノモリハ本案ト共ニスルニアラサルハ  
控訴ヲ為スナリ得ス  
第二ハ控訴ヲ為スナリ得ル

司法省

第三ノ預審ニ於テハ既ニ本案ノ裁判ノ模様  
ヲ知ルニ足ルナリ仍テ第一第二ノモリトハ  
違フナリ

此預審ノ裁判ハタトヘハ人ヲ以テ証ヲ立テ  
ルカ又ハ誓ヲ立ツル等ニ付テハソノ本案ノ  
裁判ノ模様ハ一方ノモリヘ知レルナリ  
ソノ第一第三ノナリニ付テハ第四百五十二條  
ニイリ

此三ツノ裁判ニ付テハ控訴ヲナストキハ  
ソノ本案ノ裁判ハ遅延スル証ナリ  
仍テ第二第三ノ裁判言渡ハ控訴ヲナスナリ  
得ルトモ第一ノ言渡ハ之レヲ控訴スルナ  
リ得ス之レハ拾別肝要ナルナリ



ヘナリ

預審ノ裁判ハ書キモノモナク裁判スルナリ  
タトヘハ一方ニテハ人ヲ以テ証ラ立テント  
出フトキ他ノ一方ノモノニテハ書キモノニ  
アラサレハ証トハナラスト云ヒテ争フトキ  
言葉ヲ以テ人ヲ以テ証ラ立テヨトカ立ツヘ  
カラストカ裁判ヲ言渡ストヲ言フナリ  
人ヲ以テ証ラ立テヨト裁判ヲ為シタルニツ  
キ他ノ一方ノモノ、害ト为ルトキハ直ニ  
控訴ヲ為スナリ

問 地所ノ争ヒニ付実地検査ノ言渡ハ預審  
ニ入ルヘキヤ

答 シレハ預備ニ入ルヘキナリ何トナレハ

司法省

未タ本案ニ害ヲ生セサレハナリ

本案ニ害ヲ生スルモノハ惣テ預審ノ裁判ニ  
入ル

更ニ一ツノ面倒ナルトアリ之レハ第四百五  
十三条ニアリ

第四百五十三条 始審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ  
訴訟ニ付キ初告裁判所ニテ為シタル裁判言渡  
ハ終審ノ言渡ナリト記シタル時ト虫尾之ヲ控  
訴スル夏ヲ得可シ

終審ノ裁判言渡ヲ為ス可キ訴訟ニ付キ初告裁  
判所ニテ為シタル裁判言渡ハ終審ノ言渡ナリ  
ト記スルトナリ又ハ始審ノ言渡ナリト記シタ  
ル時ト虫尾其言渡ヲ控訴スルトヲ得ス



タトヘハ確定ノ裁判アリソノ裁判言渡書ニ  
ハ初審ヲ以テ言渡ストカ又ハ終審トカヲ書  
カサルヘカラス然ルニ裁判官ニテ誤ツテ初  
審ヲ終審ト書キ終審ヲ初審ト書キタリソノ  
裁判言渡書ノ誤リテ以テソノ控訴スルヲ  
得ルト得サルトニハ関セス  
初審ヲ終審ト書キタリ仍テ控訴スルヲ得  
ル終審ヲ初審ト書キタリトモ控訴スルヲ  
得ス

元来此条ハ益ノ少ナキモノナリ  
然ルニ第四百五十七条アルニツキ少シク用  
ラ為スナリ

第四百五十七条 確定ノ裁判又ハ本案ニ管ス

司法省

ル預審ノ裁判言渡ノ控訴ヲ為ス時ハ其裁判言  
渡ノ執行ヲ止ム可シ但シ別段法律上ニ定メタ  
ル場合ニ於テ假ニ其言渡ノ如ク執行ス可キ  
ヲ定メタル時ハ格別ナリトス

初告裁判所ニテ終審ノ裁判言渡ヲ為ス可カラ  
サル事件ニ付キ誤テ終審ノモノナリト記シタ  
ル言渡書ノ執行ヲ止ムル為メニハ控訴ヲ為ス  
者相手方ヲ定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴院ニ  
呼出シ其吟味ノ席ニテ其執行ヲ止ム可キ言  
渡ヲ受リ可シ

初告裁判所ニテ終審ノ言渡ヲ為スヲ得可キ  
場合ニ於テ其言渡ヲ終審ノモノナリト記セス  
又ハ初審ノモノナリト記シタル時ハ控訴ノ被



告人其代書師ヲシテ控訴ノ原告人ノ代書師ニ  
招書ヲ送ラシメ之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出  
シテ其初告裁判所ノ言渡ヲ假ニ執行ス可キノ  
言渡ヲ受クルヲ得可シ

第四百五十七條ノ第二項ト第三項トヲ説カ  
ントス

控訴ニハニツノ原因アリ

控訴ハ裁判執行ヲ中止スルモノナリ但シ假  
リニ言渡スモノハ此限ニアラス

控訴ヲ以テ執行ヲ中止スルニハ規則ニ違フ  
カ又ハ外見ハカリモ控訴ヲ為スヲ得ルノ  
模様アルトキノナリ

此場合ニ於テハ規則ノ立テ他ノ場合ニ於テ

司法省

ハ規則ノ立テタルモノト見做スナリ

第四百五十三條ニ言フ所コニテハ誤ツテ書  
キタルトキハ控訴ニハ関係セストアレモ第

四百五十七條ニ云フ所ノ場合ニテハソノ裁  
判ハ控訴院ニテハ規則ニ違ヒタルモノト見

テソノ執行ハ中止セス

之レニ反シテ初審ト書イテアルトキハ五百  
フランクニ滿タサル裁判ナルユヘ控訴ヲ為

スヲ得スルニ云フトキ之レハ初審トカイト  
アルナリ

控訴スルヲ得ヘシト云フナリ

ソノトキハソノ執行ヲ中止スルナリ

依テ初審終審ヲ書キ誤マリタルモノハ大関



係ヲナス

誤ツテ初審ト書キタルモ、ハソノ終審ノ誤  
リノ証ノ出テサル間ハ執行ヲ中止スルナリ  
誤ツテ終審ト書キタルモ、ハソノ誤リノ証  
ノ出テサル間ハ執行スルナリ  
ソノ誤リニ付キ害ヲ生レタルモ、ハ之レヲ補  
フノ方法アリ  
初告裁判所ニテ初告ヲ誤ツテ終審トカキタ  
ルニツキソノ言渡書ヲ以テ控訴シタリソノ  
モ執行ハ中止セスレテアルニテハ控訴裁判所  
ニテソノ執行ヲ中止スヘシト言渡スナリ  
タトヘハ初告裁判所ヘ二午フランクヲ訴ヘ  
タリ然ルニ誤ツテ終審ト書キタリ之レハ控

司法省

訴ヲ為スナラ得サル訴訟ノモウナレモソノ  
誤書ナルヲ以テ控訴セリ控訴裁判所ニテハ  
言葉ヲ以テソノ執行ヲ中止スルノ言渡ヲ為  
スナリ  
之レニ反シテ初告裁判所ニテ終審ヲ誤ツテ  
初審ト書キタリ仍テ控訴ヲ為シタルトキソ  
ノ言渡書ニテハ執行ヲ中止スヘキト見ユル  
ナリソノモ、ハ控訴裁判所ニテ執行ヲ中止ス  
ヘカラスト言渡スナリ  
タトヘハ二午フランクノ訴訟ヲ終審ト言渡ス  
ヘキラ誤ツテ初審ト書キタルニヨリテソノ  
執行ヲ中止スルナリソノトキハ控訴ニテ執  
行ヲ中止セシメサルノ言渡ヲ乞フナリ



如レ初審終審ノ文字ヲ書スレテ言渡シタル  
トキハ之レヲ控訴スヘキヤ又ハ之レヲ為ス  
ヘカラサレヤ

然ルニ之レヲ控訴シタリシトキハ控訴ス  
ルヲ得ヘシト見ルモハ執行ヲ中止スル  
ナリシトキ一方ノモリニテ之レハ中止ス  
ヘキモノニアラスト云フトキハ執行ヲ中止  
セシメス

第四百五十四条 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケサ  
ルユトニ管シタル訴ニ付テハ其裁判所ニテ終  
審ノ裁判言渡ヲ為ス時ト虽モ其言渡ヲ控訴ス  
ルヲ得可シ

此条ハ説キタル所コニ説キツ、ケサルヘカ  
司法省

ラス

之レハ管轄ノ遠ヒタル裁判所ニテ終審ノ裁  
判言渡ヲ為シタルトキノ一ナリ  
之レハタトニ至当ノ裁判ニモセヨ控訴スル  
ヲ得ルナリ

一説アリタトニ管轄ノ遠ヒタリトモソノ本  
案ヲ害スル裁判ニアラサレハソノマ、ニテ  
可ナルカ如シ

然ルニ千五百ヲランクマテノ金額ハ初告裁  
判所ニテ終審ヲ為スヘシト虽モ相当ノ裁判  
所ニテ裁判スルニアラサレハナラサル法律  
ナリ

タトヘハ人権ナレハ被告人住所ノ裁判ナラ



サルヘカラス然ルヲ他ノ裁判所ニテ裁判ラ  
言渡シタルトキハ法律ニ背クユヘ之レヲ控  
訴スルヲ得ルナリ

問 誤書セシニヨツテ控訴トナリタル入  
費ハ裁判所ヨリ出スヘキヤ

答 否ラスタトニ誤書レタリトモ訴訟人  
ニテ美諾スレハアレ切リナリ然ルニ言ヒ張  
リテ控訴ヲ為スユヘリノ負ケタルモノヨリ  
払フヘキナリ

タトヘハ甲ト乙ト訴訟ヲ為レタリソノトキ  
初告裁判所ニテ甲ハ負ケタリ仍テ控訴ヲ為  
レタリ

ソノ控訴ニテ甲勝ケタリ

司法省

ソノ訴訟入費ハ初告裁判所ノ入費マテモ乙  
ニテ之ヲ払フナリ



司法省



第三十九号

訴訟法會議筆記

八年三月廿五日

司法部



訴訟法會議筆記

八年三月廿五日

過日説キタル終審初審ノ書キ誤リノトニ付テ

更ニ説リ所コアラントス

初告裁判所ニ於テ終審初審ノ裁判ヲ為スニ只

裁判言渡ストハ云ハス初審トカ終審トカ言

渡サハル可カラス

時ニヨリ初審終審ヲ誤リ又ハ全ク言ハサルト

アリ

裁判官ニテ誤リテ言渡スニ初審ヲ終審ト言ヒ

終審ヲ初審ト言ヒタルトキ控訴ノ妨ケトス

トラス

元ヨリ千五百フランク以上以下ニ付テ控訴スル

ヲ得ルト得サルノ制限アレハナリ

司法省

タトヘハ終審初審ト言渡ストモ一方ノモリ不

兼取ナルトキハ控訴スルヲ得ヘシト雖モ

終審ト書キタリトモ真ニ終審ナラハ之レヲ

取揚ケ誤リタルトキハ之レヲ取揚ルナリ

リノ金額ノ控訴スヘキモノナレハ取揚ルト虽

モ金額ノ控訴スヘカラサルモノナレバ取

リ揚ケス

併シリノ裁判入費ハ之レヲ出サハルヘカラス

書キ誤リヲ以テ取揚ル取揚ケサルニアラスノ

ノ金額ヲ以テ取リ揚タルモ取揚ケサルモア

ルナリ

併シ終審初審ト書キタルモノハ聊カ関係ナキ

ニアラス



何トナレハ終審ト書キタルモノハ外面ヨリ見  
レハ控訴ヲ為スヲ得ルカ如シ初審ト書キ  
タルモノハ為スヲ得サルカ如シ  
タトヘハ控訴ヲ為スヲ得ル裁判ヲ終審ト云  
ヒ渡シタリ之レハ控訴ヲ為スヲ得スト見  
ユルユヘ執行ヲ始メタリソトキハソノ本  
案ノ訴ヲ為サ、ル前ニソノ執行ヲ止ムル  
ヲ訴フレハ裁判官ハ一應取調ヘタル上ソノ  
執行ヲ中止スルナリ  
終審ノ裁判大々ノ訴ヲ為シタルトキ初審ト言  
渡シタルニ付外面ヨリ見レハ控訴ヲ為ス  
ヲ得ルト見ユルニツキ執行ヲ為サ、ルナリ  
ソノハ控訴ヲ為シテ執行ヲ始ムヘキ旨ヲ願  
フトキハ裁判官ニテ之レヲ執行スヘシト言  
渡スナリ

司法省

第四百五十五条 第四百五十六条ヲ置キテ第  
四百五十八条ト第四百五十九条ヲ説カント  
ス

第四百五十八条 若シ初告裁判所ノ言渡ヲ假  
ニ執行フヘキ場合ニ於テ之レヲ言渡サ、ル時  
ハ控訴ノ被告人其代書師ヲシテ原告人ノ代書  
師ニ招書ヲ送ラシメ、其原告人ヲ控訴院ノ吟味  
ノ席ニ呼出シ控訴ノ裁判言渡ノ前ニ初告裁判  
所ノ言渡ヲ假ニ執行フ可キ言渡ヲ受クル  
ヲ得可シ

第四百五十九条 別段法律上ニ定メタル場合



第百五十八條ニ非スレテ初告裁判所ヨリ其言渡ラ  
假ニ執行ヲ可キトテ言渡レタル時ハ控訴ノ原  
告人定期ヨリ更ニ短キ時間ニ控訴ノ被告人ヲ  
控訴院ノ吟味ノ席ニ呼出し其執行ヲ止ム可キ  
ノ言渡ヲ受クルトテ得可シ但シ其原告人定期  
ヨリ更ニ短キ時間ニ其被告人ヲ呼出ス可キ願  
書ヲ控訴院ノ上席人ニ出シタルノミニシテ其  
書面ヲ被告人ニ送ルトナリ直ニ其上席人ヨリ  
初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ止メシム可カラズ  
裁判言渡ノトテ説キタル所ロニテ一時執行セ  
サルヘカラサルトキハ假リニ裁判ヲ言渡ス  
トテ説キタリ

司法省

トハ法律上ニ於テ至急ノ執行ヲ言渡スヘ  
キ場合又ハ裁判官ニテ至急ノ執行ヲ言渡ス  
ヘシト思量スル場合ニテハ假リノ執行ヲ言  
渡スナリ

之レニ反シテ至急ニ執行ヲ為スヘキ場合ニ於  
テ假リノ裁判ヲ言渡サハリナリ  
トモリノ言渡レタル裁判ヲソノ裁判所ニテ  
之レヲ取テラストテ得スリトキハ控訴裁  
判所ノ願ヒテソノ執行ノ言渡ヲ受クルトテ  
得可シ

第四百五十八條之レナリ  
之レハ既ニ控訴ヲ生シタルトキノ場合ヲ以テ  
云フ



如シ假リノ執行ヲ言渡スヘキ場合ニアラスレ  
テ言渡シタルトキハ之レヲ控訴裁判所へ訴  
ヘテソノ執行ヲ中止スヘシ之レハ第四百八十  
九条ニアリ

此条ハ未夕控訴ヲ為サス仍テ定期ヨリ更ニ短  
カキ時間ニ控訴ノ被告人ヲ控訴裁判所ニ呼  
出ストアルナリ

原則ナレハ八日内ハ勝タルモノモ執行セス負  
タルモノモ控訴セス然ルニ之レハ假リニ執  
行ノ言渡シアリタルトキナリナリトキ  
ハ勝チタルモノヨリ控訴セサルヘカラサル  
ナラズナリ

司法省

第四百五十八条ノ末ニ如シ未夕控訴ヲ為サ、  
ルトキハ勝チタルモノヨリ定期ヨリ更ニ短  
カキ時間ニ控訴ヲ為シテ假リニソノ執行ヲ  
ヘキ、言渡ヲ受クルナリ得ヘシトノ文ヲ補  
足スヘシ、

第四百五十九条ノ場合ニ於テハ忽チ八日ノ期  
限ハ過ルニ付キ控訴ノ本案ハ之レヲ置キ急  
ニソノ執行ヲ中止スルナリ得フ可シ

如シ之レヲ為サ、ルトキハ假リノ執行ハソノ  
マ、ツ、キ控訴ハ八日ヲ過キサレハ為スナ  
ラ得サルナリ

此条中ニアル「テ」アンズト云フ字ハ禁スルト  
云フ意味ニテ通常ノ辨白又ハ答辨ノ意味ト  
ハ違フナリ



元來敬慎ノ願書ヲ以テ訴フルトハ一方ノモ  
ヘ通知シテソノ承諾不承諾ノ返答ヲ得スレ  
テ為ストテ得ス万一方ノモ、返答ヲ得  
サルトハ双方裁判席へ出テタルトキ之レ  
ヲ取調ヘニ裁判ヲ為スナリ  
(其被告人ヲ呼ビ出スヘキ願書ヲ云々之レナ  
リ)

第四百六十條 前數條ニ記シタル場合ノ外ハ  
控訴院ヨリ初告裁判所ノ言渡ノ執行ヲ禁シ又  
ハ如何ナル方法ヲ向ハス之レヲ止ム可キ言  
渡ヲ為ス可カラス若シ此規則ニ背キ控訴院ニ  
テ為シタル言渡ハ其効ナカル可シ  
此第四百六十條ハ曰法律ノ餘韻ナリ

司法省

前數條ノ外ハ控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ノ  
執行ヲ禁スヘカラス如シ禁シタルトキハソ  
ノ効ナレトスルナリ  
以前ハ偽証又ハ証書ヲ隠ス等ニ付テ敬慎ノ願  
書ヲ以テ願ヒタルトキハ執行ヲ止メ又ハ執  
行セシムルナリ今ハ之レヲ禁シタリ  
即チ此條之レナリ  
此場合ニハ此ノ如シト毎事件ソノ法律アル上  
ハ此條ハ不用ナリ  
法律中ニ不用ノ條アルハ惣テ曰法律ノ餘韻ナ  
リ

第四百五十五條ニ還ル

第四百五十四條 初告裁判所ノ管轄ヲ受ケテ



ル丁ニ管シタル訴ニ付テハ其裁判所ニテ終審ノ裁判言渡ヲ為ス時ト雖モ其言渡ヲ控訴スルコトヲ得可シ

此条ハ欠席裁判ヲ受ケタルトキハソノ故障ヲ述フル期限ト控訴ノ期限トヲ區別スルコトヲ云フモノナリ

欠席裁判ニ代書師ヲ立テタルト立テサルトノ二様アリ何レモ期限ノ遠クモナリ

此レハ頗フル一方ノモノヲ惠ミタル条ナリ  
タトヘハ故障ヲ述フヘキ時間ニ控訴ヲ為ストキハ未タ故障ノ時間アリト云ヒ之レヲ止メテ故障ヲ述フルコトヲ得ルモノナリ

司法省

云フコトヲ得サルニアラス控訴ヲ為スヘキ時間ニ之レヲ為サシテ上告ヲ為レタルトキハ控訴ヲ為ストラ許サ、ルニアラス仍テ故障ヲ述フヘキ時間ニハ先ツ單一ナル故障ヲ述ル方ニ為スヘキコトヲ云フモノナリ

タトヘハ代書師ヲ立テソノ代書師ニテ見込昏ヲ出サスレテ欠席裁判トナリタルトキハソノ故障ヲ述ヘキ時間ハ八日ナリトス

此八日ヲ過クレハ控訴ヲ為スヨリ外ハナシ  
控訴ヲ為スヘキ二ヶ月ハ故障ヲ述フヘキ八日ヲ過キテ起算スルナリ

代書師ヲ立テスシテ欠席裁判トナリタルトキハソノ執行ヲ始メタルヨリ殆ント終ルマテ



ハ故障ヲ述フルコトヲ得ルナリ既ニ其執行ヲ  
終リタル上ハ故障ヲ述フルコトヲ得ス然レモ  
控訴ヲ為スコトヲ得ル

リノ場合ニ於テハ尋常ノ控訴ハ違フナリ元  
來控訴ハ裁判ヲ中止スルモノナリ此控訴ハ  
負ケヘカラサル訴訟ニ負ケタルニハ裁判執  
行ヲ取戻スコトヲ乞フモノナリ

出席裁判ニ於テ訴訟ニ負ケタリトモ本心ニテ  
私ヒタルニアラサル執行ハ控訴ヲ為スコトヲ  
得ル

ソノ本心ナルトキハ請取昏アリ本心ナラサル  
所ハ勝訴ノモノヨリ財産ヲ取押ヘテ強テ賣  
ツタルトキ等ニテ受取昏ヲ出スコトアルマシ

司法省

ナナリ  
兼諾不兼諾ノ區別スルニハ受取昏ヲ有無ヲ以  
テスルナリ

欠席裁判ナリトモ本心ヨリ兼諾シテ執行ヲ為  
シタルトキモ即チ控訴ヲ為スコトヲ得ス  
以下控訴ノ式ヲ説カントス

第四百五十六條 控訴昏ニハ法律ニテ定メタ  
ル定期内ニ相手方ヲ控訴院ニ呼出ス旨ヲ記シ  
之レヲ其相手方本人又ハ其住所ニ送達ス可シ  
若シ其法式ヲ行ハサル時ハ其昏面ノ効ナカル  
可シ

此条ハ控訴ノ呼出シテ掛ルコトナリ定期内トハ  
呼出状ヲ送達シタルヨリ裁判所へ出ツルハ



八日ノ一十リソノ路程ノ遠近ニヨリテ差違  
ヒアルト并ニソノ呼出状ヲ本人又ハソノ住  
所ニ送達スルト惣テ初告裁判所ノ式ト同シ  
如シ其法式ヲ行ハサルトキハソノ呼出状ノ効  
ナシトス

控訴昏ニハ裁カ不兼諾ノ條件ヲ書キソノ下ニ  
右ニ付キ裁判所へ呼出ストラ昏クモノナリ  
先ツ不兼諾ノ旨ヲ言送り後ニ呼出昏ヲ送ル  
ラ許サス必ラス不兼諾ニツキ裁判所へ出ツ  
ヘシト云フト定ムルナリ

此控訴昏ハ通常ノ呼出状トハ異ナリ  
タトヘハ裁判ニツキ不服ナルトキ方ノモヘ  
先ツ控訴状ヲ送達シテ一時旅行ヲ為ス等ノ

司法省

片ハ控訴ヲ受クルモノニテハ何時ニ控訴ヲ  
受クヘキヤト悩心ヲ生スルヲ好マス故ニ控  
訴ヲ為スニ於テハ直ニ呼出スト定メタ  
ルナリ

第四百六十一条 初告裁判所ニテ昏面ニ因リ  
吟味ヲ為シタル訴訟ノ裁判言渡ハ虫屯之レテ  
控訴スル時ハ昏面ヲ用ヒス直ニ控訴院ノ吟  
味ノ席ニ具控訴ヲ為ス可シ但シ控訴院ニテ格  
別ノ道理アルト思量ス時ハ再ヒ昏面ニ因テ之  
レヲ吟味ス可キトテ言渡ス可シ

初告裁判所ニテ昏面吟味ヲ為シタルモノヲ控  
訴スルトキハ控訴裁判所ニテハ必ラス昏面  
吟味ヲ為スニ及ハス但シ格別ノ道理アルト



キハ昏面吟味ヲ為スヘキコトヲ得可キヲ云フ  
モノナリ

第四百六十二条 控訴ノ被告人代昏師ヲ任シ  
タルヨリ八日内ニ控訴ノ原告人ハ初告裁判所  
ノ言渡ニ兼服セサル憑地ヲ昏面ニ記シテ被告  
人へ送達シ其被告人ハ其後八日内ニ答辯昏ヲ  
送ル可シ但シ其他ノ手續ナク原告人ヨリ被告  
人ニ吟味ノ席ニ出ツヘキコトヲ要ム可シ

控訴ノ原告人ヨリ呼出状ヲ送リタルトキハ控  
訴ノ被告人ニテハ八日内ニ代昏師ヲ立テサ  
ルヘカラス之レハ控訴裁判所ノ代昏師ナリ  
リノ代昏師ヲ立テタルヨリ八日内ニ控訴ノ原  
告人ハ初告裁判所ノ言渡ニ兼服セサル証地

司法省

ヲ委シク昏面ニ記シテ被告人ニ送達スル  
ナリ

初告裁判所ノ訴訟ハ何時ナリトモ妨ケナシト  
虽モ控訴ヲ為スニハ二月ノ期限アルニ  
控訴昏ニハ委シク記スル時間ナキコトアリ  
其被告人ハ其後八日内ニ答辯昏ヲ送ルナリ  
佛ニテハ法律昏ニ裁判所ニ出席スト昏キタル  
モノハ實際本人ノ出席スルコトハナシ皆ナ代  
昏師ヲ立テタルコトナリ之レハ原被告トモ同  
シ

既ニ代昏師ヲ任シタル上ハ昏記簿ノ簿冊ニ記  
入スルナリコトノ記入ノ順序ニ從ツテ裁判ト  
ナル



リノ後八日ヲ過キ招唇ヲ送りテ双方トモニ裁  
判所へ出席スルナリ

仍テ双方裁判所へ出席スルマテハ三十日ヲ費  
ヤスナリ

呼出状ヲ送りテ控訴ノ被告人ニテ代唇師ヲ立  
ツルマテハマルハ日

即チ十日此分差路程ノ遠近ニヨ

リノ後控訴ノ原告人ニテハ八日内ニ不義股ノ  
旨ヲ送ルマルハ日即チ十日

リノ後控訴ノ被告人ニテ答辯唇ヲ送ルハマル  
八日ナリ即チ十日合セテ三十日トナル

司法省



訴訟法會議筆記

第四十號

司法省



第四百六十三條 急速吟味ノ法式ヲ以テ為シタル裁判言渡ノ控訴ハ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ルノミニテ其他ノ手續ナク之ヲ控訴院ノ吟味ノ席ニ上告ス可シ又控訴ノ被告人定期内ニ其代書ヲ任セサル時ハ通常ノ法式ヲ以テ為シタル裁判言渡ノ控訴ニ付テモ亦同一ナリトス

過日急速吟味ノ法式ヲ以テ裁判スルヲ説キタリ

### 司法省

最初初告裁判所ニテ急速吟味ヲ受ケタルモノハソノ他ノ手續ナク一方ノ代書師ヨリ他一方ノ代書師へ招書ヲ送リタルノミニテ通常ノ如ク八日ヲ過キテ答弁書ヲ送ル等ノ手續ナク直子ニ裁判席ニ出ツルヲ云フ如シソノ時ニ至リ控訴ノ被告人ニテ代書師ヲ任セサルトキハ直子ニ欠席ノ裁判ヲ言渡スナリ

此條中ニ裁判言渡ノ控訴ハ一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送ル云々此招書



ハ「レ」ケートトニアラス通常ノ招書ナリ  
又云々ヨリ以上モ以下モ亦同一ナリトスト  
書イテアリ「ホ」アソナート案スルニ又以下ハ  
通常ノ「フ」ヲ云フモノナリソノ通常ノ手ツ、  
キナレハ被告人ニテ代書師ヲ立ツルニ八日  
ツノ後原告人ニテ不服ヲ云フニ八日又ソノ  
後被告人ニテ答辯書ヲ送ルハ又八日ナリソ  
ノ後招書ヲ送りテ而シテ後裁判所へ出席スル  
ナリ仍テ同一ナリト云フトモソノ同一ハソ  
ノ他ノ手ツ、キナクハ同一ナレ代書師ナ  
司法省

キユへ招書ハ送ラサルナリソノ送ラサルハ  
同一ナラサルナリ

此所口ニテ三ツノ區別ヲ立テサルヘカラス  
通常ノ時ハ八日内ニ代書師ヲ立ツ

又代書師ヲ立テタル「フ」ヲ言ヒ送ル控訴ノ原  
告人ヨリ我カ不服ヲ言ヒ送ル

更ニ八日ヲ過キテ被告人ヨリ答弁書ヲオク  
ル

是マテハ裁判所へハ出席セスソノ出席スル  
ニハ招書ヲ送ラサルヘカラス



ソノ間ニ裁判所ノ帳簿へ登記ス裁判所ニテ  
ハソノ取調ノ割付ケヲ為シ置クナリ  
ソノ時ニ招書ヲ送ラサレハ裁判所へ出席ス  
ルニ及ハス  
原告人ヨリ不服ヲ言フノ八日ハ時々替ハ  
ルナリ何トナレハ原告人ニテ五日目ニ代書  
師ヲ立テタルヲ言ヒ送リタルトキハソノ  
日ヨリ起算ス如シ八日目ナレハソノ八日目  
ヨリ起算スルナリ

第二

司法省

急速吟味ノ手ツ、キラ以テ裁判ヲ為ストキ  
ハ不服ヲ言ヒ送ルニモ及ハス又答辯書ヲ送  
ルニモ及ハス初メノ八日内ニ代書師ヲ立テ  
レハヨロシ  
ソノ代書師ヲ立テタル上ハ招書ヲ送リタル  
ノミニテ出席スルナリソノ他ノ手ツ、キナ  
シ

第三

通常ノ控訴ノトキニ代書師ヲ立テサリシ  
ソノトキニハ八日目ノ朝ニ控訴裁判所へ行



キテ直チニ欠席裁判ヲ請求スルナリ之レハ  
代書師トキユヘ招書ヲ送ルニ及ハス此條ノ  
文章ヨロシカラス

第四百六十四條 控訴ノ時ハ嘗テ初告裁判所  
ニ述ヘタルヨリ更ニ新タナル訴ヲ為ス可カラ  
ス但シ義務ヲ互ニ消殺スルニ付キ新タナル訴  
ヲ為シ又ハ主タル訴訟ノ助トシテ新タナル訴  
ヲ為ストハ之ヲ許ス

又一方ノ者ハ初告裁判所ノ言渡ノ後相手方ヨ  
リ得可キ息銀年金ノ額家屋ノ貸賃及ヒ其他ノ

### 司法省

附加シタル諸件ヲ得ント欲スルヲ控訴院ニ  
訴ヘ又ハ初告裁判所ノ言渡ノ後損害ヲ受ケタ  
ルニ付キ其償ヲ相手方ヨリ得ント欲スルヲ  
控訴院ニ訴フルヲ得可シ

元来控訴ヲ為ストキニハ初告裁判所ニテ述  
ヘサルヲ新タニ控訴スルヲ得サルハ原  
則ナリ

ソノ規則ヲ立テタル原因アリ

第一ニ

初告控訴ニツノ裁判所ヲ何レナリトモ一方



ヲ取り除ケサル方法ナリソノ原因ノ悪キヲ  
ヲ説カントス

ニツノ裁判所ノ一方ヲ取り除ケサル方法ト  
為シタルハ直子ニ上等ノ裁判所へ出ルコトヲ  
得サルヤウニ為シタルモノナリ

タトヘハ初告裁判所ニテ裁判ヲ為シタリソ  
ノトキ一方ノモノニテ兼服スルハ一方ノモ  
ノ不服ナレハ之レヲ破フルナリ  
ソノ慥カナルモノハ上等ノ控訴裁判所之レ  
ナリ

### 司法省

然レハ初告裁判所ヲ離ル、コトヲ得スタトヒ  
直子ニ控訴裁判所へ出ント欲スルトモ得サ  
ルナリ

新タナル訴訟ヲ控訴裁判所へ出スコトハ旨意  
アルコトナリ

初告裁判所ハ不慥ナリトシテ控訴裁判所へ  
出ツルトキハ初告裁判所へ出ツルモノナク  
シテ尽ク控訴裁判所へ出ツヘシ

控訴裁判所ハ初告裁判所ノ百件中ニテ廿五  
件位ヨリ外ハ持子出サ、ルナリ



直子ニ控訴裁判所へ出ツルコトヲ許ストキハ  
初告裁判所ハ閑暇ナルヘシ

仍テ通常ノコトハ願ヒニヨリテ吟味ヲ為スト  
並ニ新タナル訴訟ハ双方ノ願ヒニ仍ラス控  
訴裁判官ニテ直子ニ之レヲ戻スヘキナリ  
併シ新タナル訴訟ヲ直子ニ持出ス場合アリ  
控訴ヲ為シタル被告人トナリタルトキソノ  
本案ヲ防ク為メニハ新タナル訴へヲ為スコ  
トヲ許スナリ

タトヘハ差引勘定ノ如キ之レナリ之レヲ持

### 司法省

子出ストキハ控訴ノ本案ノ消滅スルコトアリ  
又消滅セストモ幾分ノ便益アリ

義務ヲ互ニ差引勘定ノ消殺スルニ付キト云  
フトモ又ハ主タル訴訟ノ助トシテ新タナル  
訴ヲ為スト云フモ同一ノコトナリ

又同一ナラサルコトアリ

タトヘハ初告裁判所ニテ契約ノ義務ヲ遂ケ  
ナルニ付キ訴訟トナリテ負ケタリ仍テ控訴  
ヲ為シタリ

ソノトキ負ケタルモノニテ之レハ不善ノ契



約ナリ依テ之レヲ遂ケスト云フトキ之レナ  
リ  
之レハ差引勘定ニモアラス

又原告人ニテ新タナル訴ヲ為ストアリ併シ  
ソノ場合ハ甚タ狭シ

初告裁判所ニテ未タ期限ノ来ラサル為メニ  
負ケタリソノ後期限ノ来リタルコト又ハ初告  
裁判所ノ裁判後ニ生シタル損害ノ償ヲ求ム  
ルコトヲ得ルナリ

初告裁判所ノ裁判前ニ期限ノ来リタル息銀  
**司法省**

又ハ年金等ヲ初メニ残シタルトキハ之レヲ  
控訴裁判所へ訴フルコトヲ得ス之レハ再ヒ初  
告裁判所へ訴へサルヘカラス



司法省



訴訟法會議筆記

第四十壹號

司法省



訴訟法會議筆記

八年四月十日

前條ニ於テ新タル控訴ヲ為スルヲ得ス併シ  
事ニヨリ新タル控訴ヲ為スルヲ得ルヲ  
説キタリ

第四百六十五條 前條ニ記シタル場合ニ於テ  
一方ノ者控訴院ニ新タル訴訟ヲ為サントス  
ルニハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其新タ  
ナル訴訟ヲ為スル道理ヲ記シタル趣意書ヲ送  
達セシメテ之ヲ為ス可シ

又一方ノ者以前初告裁判所ニ差出シタル趣意

### 司法省

書ノ条件ヲ更改セント欲スル時モ亦其更改ヲ  
為ス道理ヲ記シタル趣意書ヲ相手方ニ送達ス  
可シ

初告裁判所又ハ控訴院ニ嘗テ出シタル憑批書  
及ヒ答弁書ト同一ナル書面ヲ更ニ控訴院ニ出  
シタル時ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラ  
ス

既ニ一度出シタル書面ニ記セシ憑批及ヒ答弁  
ト新タニ述フル憑批及ヒ答弁トヲ相混シテ記  
シタル書面ヲ控訴院ニ出シタル時ハ其書面中



ニテ新タニ述フル憑拠及ヒ答辨ヲ記シタル部  
分ノミノ費用ヲ裁判費用中ニ加フ可シ

此第四百六十五條ハソノ法方ナリ

新タナルヲ控訴スルトキニハソノ趣意ヲレ  
ケートレノ式ヲ以テソノ道理ヲ記セサルヘカ  
ラスソノ方法ハ成リ丈ケ簡易ニシテ費用ヲ  
省クモノナリトス

若シ一方ノモノニテソノ見込書ヲ替ユルカ又  
ハソノ趣意ヲ替ユルトキモ即チ同シ

法律ニ於テハ勤メテ費用ヲ省ク方法ヲ立テタ

### 司法省

リ故ニ一旦初告裁判所又ハ控訴院へ出シタ  
ル書類ヲ更ニ出ストキハソノ言ヒ付ケタル  
モノト代書師トニテソノ費用ヲ補ハサルヘ  
カラス

惣テ更ニ出シタル書類ハ最初出シタルト再ヒ  
出シタルトヲ區別シテ最初ノモノハ取捨テ  
後ニ出シタル分ノミノ費用ヲ出サシムルナ  
リ

之レ等ハ法律中ニ書クニ及ハス入費ノ表ニ記  
シテ置レリト思フナリ



第四百六十六條 原告被告ノ受ケタル裁判言  
渡ヲ取消サント訴フル権アル者ニ非レハ原告  
被告ニ非サル者控訴ニ管渉スルコトヲ許ス  
此条ハ此次卷ニアル所口ノ訴訟ヲナス双方者  
ノ外ノ人ニテ訴訟ニ管渉スルコトヲ得ル保シ  
ソノ限リアリテ誰レニテモ管渉スルコ  
トヲ得ス

初告裁判所ノ訴訟ニ管渉セシモノ即チ保証等  
ノ人ナリ

又タトハハソノ訴訟ノ甲ニ権利アルカ又ハ乙

### 司法省

ニ権利アルカノモノハ管渉スルコトヲ得ル

此ニツノ外ニ次卷ニ云フ所ノ人ハ管渉スルコ  
トヲ得ルナリ

尤来外人ニテ管渉スルコトハ非常ノコトナリソノ  
非常ノトキニ管渉スルヨリハ控訴ノトキ管  
渉スル方ヨロシト云フコトナリ

不日外人ノ管渉スルコトヲ説クニヘソノ時ニ詳  
カニ説カントス

次ノ二條ハ控訴院ニテソノ訴訟ヲ決スル方法  
ヲ説キタルモノナリ



第四百六十七條 控訴院ノ裁判後數員ニ三箇  
以上ノ説アル時ハ最モ寡數ノ裁判後他ノ二箇  
ノ説中ノ一箇ニ從フ可シ

第四百六十八條 控訴院ニテ一箇ノ説ヲ非ト  
スル者ノ數ト可トスル者ノ數ト均シキ時ハ其  
説ヲ決ス可キ為メ其訴訟ニ管セサル裁判役一  
員ヲ其受任ノ順序ニ從ヒ呼迎ヘ又ハ奇數ヲ以  
テ數員ヲ呼迎ヘ其訴訟ヲ更ニ吟味シ又畫面ニ  
因リ吟味ヲ為ス可キ時ハ掛リ裁判役ヲシテ更  
ニ其申立ヲ為サシム可シ

### 司法省

控訴院ノ裁判後皆其訴訟ノ吟味ニ管シ其説ノ  
決セサル時ハ之ヲ決スル為メ先ニ登級シタル  
順序ヲ以テ法律家ニ三員ヲ呼迎フ可シ

初告裁判所ノ第四百十六條ト第四百十七條ト第百  
十八條ヲ參照スヘシ

第四百六十七八條ハ不十分ナリ仍テ初告裁判  
所ノ三條ヲ以テ補足セサルヘカラス

第四百六十七條ニハ説ノ多キニ從ハサルヘカ  
ラサルヲ云ハスソノ説ノ多キニ從フハ  
第四百十六條ヲ以テ補足セサルヘカラス



如シ説ノニツニ分カレタルトキハ自然ニソノ  
多少ノ分カル、ユヘ天然ノ多数トナル如シ  
四人ハ一説ニテ三人ノ二説ナルトキハ四人  
ニ従フナリ

如シソノ説ノ分カレテ三説トナリタルトキソ  
ノ内ノ一説ニテ何レニカ附カサルヲ得サル  
ヲ得サルナリ

初告裁判所ニテ三説ニ分カレタルトキハ一応  
聞キ直スヲアリ此所ニハ晝イテナシ  
併シ控訴ノトキモ一応聞キ直スナリ

### 司法省

三度メニ至リテ分カレタルトキハ初告裁判所  
ノ通り何レヘカ附カサルヲ得ス

タトヘハ償金ノ一ニ付テ裁判ヲ言渡ストキ初  
メノ三人ハ償金ヲ多ク出サシムル見込ニ又  
三人ハ甚タ寡ナシ一人ハ中間ノ見込ニナリ  
ソノトキハソノ一人ハ何レヘカ付カサルヘ  
カラス然ルニ最初ノ三人ノ説ハ多キニ過ク  
ルト思ヒタルナリ仍テ寡ナキ方ニ附クナル  
ヘシ併シ何レニ附キタリトモ妨ナシトス

七人ノ裁判官ノトキ三人ハ同説ニテ四人ハ各



、異説ナリソノトキハ三人ハ七人中ノ多数トハナラス四人ナレハ多数トナル

控訴裁判所ハ七人ヨリ少ナク出ルヲ得サル規則アリ仍テ八人又ハ十人ナルトモ四人ツ、五人ツ、ト分レタリ其時ニハソノ同局ソ人カ又ハ其控訴院中ノ人ヲ入レテソノ説ヲ分カタサルヲ得ス

此所口ニ少シク面倒ナルヲアリ其訴訟ニ管セサル裁判役云ニトアリタトヘハ数年カ、リタル訴訟等ニハ其幾分ノ裁判ヲ為シタル裁判官モアルヘシ其人ハ入レベカラス

### 司法省

尤モ裁判所ノ権限ノ違ヒタルヲニ付テ管涉シタルノミニテ本案ニ管セサルヲ取扱ヒタル裁判官ハ此限ニアラストス

タトヘハ一ツノ訴訟ヲ一ツノ控訴裁判所ヘ持出シタル然ルニソノ裁判所ニテ受理スルトモ妨ケストテ取り揚ケタリトモソノ第一局ニテ受理スルヲニアラストシテ第二局ヘ送りタル裁判官ハ此限ニアラス

如シ説ノ分カレタルトキ他ノ裁判官ヲ呼ヒテ



説ヲ分ケルトキハソノ訴訟ヲ更ニ吟味セサ  
ルヘカラスソノ訴訟ハ書面吟味ヲ為シタル  
訴訟ナルトキハ裁判官中ノ一人ニテ啓告ノ  
式ヲ為サ、ルヘカラス

第四百一条ニ云フ所口ノ如ク最初書面吟味ヲ  
為シタル訴訟ハ更ニ始メノ如ク為サ、ルヘ  
カラス

如シ裁判所ノ裁判官惣テ出席シタリトモ決セ  
サルトキハ法律家ヲ呼ヒ加ヘテ決セサルヘ  
カラス

### 司法省

此法律家ト云フハ代書師又ハ代言人ナリトス  
第四百九十五條ニ少ナクトモ十年以來云々ト  
アリ此処ニ用ユル代書師代言人モ十年以來  
其職務ヲ行フタルモノヲ用ユヘキナリ

第四百六十九條 控訴ヲ定期ノ時間停止シタ  
ルニ因リ其訴ノ手續ヲ取消ト為スニ至リシ時  
ハ再ヒ其控訴ヲ為スコトヲ得スシテ初告裁判所  
ノ言渡ヲ裁判ヲ經タル事ノカアリトス

初告裁判所ノ説クトキ訴訟ノ消滅スルコトヲ説  
キタリ



之レハ三年間答弁ヲモ為サスシテ居ルトキハ  
ソノ訴訟ハ消滅スルナリ

併シソノ権利ハ消滅セス再ヒ訴訟ヲ為シ直ス  
ナリ

然ルニ控訴裁判所ニテソノ終ニ為シ在ルトキ  
ハ如何ナルヘキヤト云フトキハ

此條即チ之レナリ

初告裁判所ニテ訴ヘテ為シ三年ノ間ソノ終ニ  
為シ置クトキハソノ訴訟ハ消滅スルナリ

ソノトキハ期滿得免ハ中止セス仍テ再ヒ訴訟

### 司法省

シ為ストキ期滿得免ノ未タ尽キサルトキハ  
再ヒ訴訟ヲ為スコトヲ得ヘシト虽モ既ニ尽キ  
タルトキハ訴訟ヲ為スコトヲ得ス

控訴裁判ニモ同シコトアリ

此場合ニ於テハタトヒ期滿得免ハ未タ尽キサ  
ルトモ再ヒ為スコトヲ得ス

何トナレハ控訴期限ハ二ヶ月ナリ然ルニ三年  
ヲ過クルエヘ再ヒ訴訟ヲ為スコトヲ得サルナ  
リ

ソノ訴訟ヲ消滅セシメサラント欲スルトキハ



三ヶ年目ニ一度ツ、訴訟ノ手數ヲ為スナリ  
控訴モ同シ

タトヘハ佛ノ革命ノ如キトキ裁判所ノ書類ノ  
燒失セシトキ等ハソノ訴訟ヲ消滅セシメサ  
ル為メニ三年目三年目ニハ必ラス訴訟ノ手  
數ヲ為シタルモノアリ併シ肝要ナル書類ハ  
燒失セシユヘ裁判トハナラス

今説ク所ハ佛ノ初第<sup>ナ</sup>ボレラ<sup>シ</sup>ノ時ヨリノ訴  
訟アリテ千八百六十九年ニ至リテ裁判トナ  
リテ負ケタリ

### 司法省

其訴訟ハ伊太里ト佛ト混合シタルトキノ<sup>ナ</sup>  
リシ

伊太里ニテハ佛ノ權ノ混合シタルユヘ佛ニテ  
拂フヘシト云ヒ佛ニテハ伊太里ニテ事ノ生  
シタルユヘ伊太里ニテ拂フヘシト云ヒタリ  
政府ノ負債ハ時ニヨリ此ノ如キ<sup>ナ</sup>アリ

第四百七十條 前數條ニ記シタル規則ヲ除ク  
ノ外初告裁判所ノ規則ヲ控訴院ニ通シ用フ可  
シ

前ニ説ク如ク若シ控訴院ノ規則ノ足ラサル<sup>ナ</sup>



ハ初告裁判所ノ規則ヲ以テ補フヘシト之レ  
ハ同一ノ一ラ度々記載スルモ煩ハシキユヘ  
ナリ

過日説キタル未タ訴訟トナラサル前ニ代書師  
ノ死去セシトキハ別段ニ代書師ヲ任セサル  
ヘカラサルヲ又ハ第十八章ニ記シタルヲモ  
控訴院ニ通用スヘシ

又廿章ノ親族ノ一モ同シ  
又廿一章モ同シ

又廿三章解訴ノ一モ同シ

### 司法省

又欠席裁判ノ時モ同シ欠席裁判ノトキ代書師  
ヲ立テタルトキモ立テサルトキモ同シ併シ  
ソノ故障ヲ云フトキ又ケノ違ヒナリトス

第四百七十一條 治安裁判所ノ言渡ノ控訴ヲ  
為ス者負訴訟トナル時ハ五フランクノ罰金ヲ  
言渡サル可ク又初告裁判所又ハ商法裁判所ノ  
言渡ノ控訴ヲ為ス者負訴訟トナル時ハ十フラ  
ンクノ罰金ヲ言渡サル可シ

此條ハ別ニ文章外ノ意味ナシ此罰金ヲ出スヘ  
キ規則ヲ立テタルモノハ時間ヲ延引スル為



メニ訴訟ヲ為スヲ禁スル為メニ立テタルモ  
ノナリ

ホアソナード案スルニ之レヲ禁スル為メナル  
片ハ猶ホ重ク取ルヘシ

元來初告裁判所へ訴訟ヲ為ス權アルモノハ控  
訴裁判所へ訴訟ヲ為スノ權アリ然ラハソノ  
罰金ヲ取ラサル方ヨロシ

上告ニテ負ケタルトキハ三百フランクヲ取ラ  
ル

裁判官ヲ相手取りテ負ケタルトキハ三百フラン  
クヲ取ラル

### 司法省

外人ニテ敬慎ノ願ヒヲ為シタルトキハ百五十  
フランクヲ取ラル

之レ等ハ取りテモ可ナリト思フナリ何トナレ  
ハ人民ニテソレマテ控セズトモ可ナルヘキ  
ナリ

我カ真ノ文書ヲ贋造セリト云ヒテ後檢真ノト  
キ至リテ我カ真ノ文書ナルトキハ三百フラン  
クヲ取ラル

公正ノ証書ヲ贋造シタルトキハ三百フランク



ヲ取テル

司法省



司法省



訴訟法會議筆記

第四十四號  
四月廿日

司法省



第四百八十條 初告裁判所及ヒ控訴院ニテ原告被告双方ノ面前ニテ為シタル終審ノ裁判言渡アル時及ヒ一方ノ者抗傳ノ時為シタル終審ノ裁判言渡ヲ既ニ故障ヲ述フルトヲ得サルニ至リシ時ハ一方ノ者ノ願ニ因リ左ノ諸件ニ付キ其言渡ヲ取消ト為ストヲ得ヘシ

第一 相手方本人ノ詐偽アル時

第二 裁判言渡ノ前又ハ裁判言渡ノ時欠クヘカラサル法式ヲ欠キシ時但シ其法式ヲ欠キタルニ因リ本人其言渡ノ取消

### 司法省

ヲ願フヘキ時其定期ヲ過シタルニ於テハ拾別十リトス

第三 本人ヨリ訴出サル事柄ニ付キ裁判言渡アリシハ

第四 本人ノ訴出シタルヨリ更ニ餘分ノ事ニ付キ裁判言渡アリシ時

第五 本人ノ訴タル箇條中ノ一箇ヲ裁判言渡ニ遺脱シタル時

第六 同シ裁判所ニテ同シ双方本人ノ間同シ事柄ニ付キ二箇ノ終審ノ裁判言渡



ノ五ニ齟齬シタルキ

第七 一箇ノ裁判言渡書中ニ齟齬シタル  
事アルキ

第八 檢察官ニ報知スヘキ場合ニ於テ其  
報知ヲ為サスシテ檢察官ヨリ權利ノ保  
護ヲ受クヘキ者ノ員訴訟トナリシ時

第九 裁判言渡ノ後其裁判ニ用ヒタル証  
各ヲ相手方ニテ贋造ナリト自認シ又ハ  
裁判所ヘ贋造ナリト申立テタルキ

第十 相手方ノ隠蔽シタル至重ノ証書類

### 司法省

ヲ裁判言渡ノ後ニ取返シタルキ

此第四百八十條裁判取消ノ方法ナリ

敬慎ノ願書ハソノ裁判ヲ受ケタル裁判所ヘ  
願フナリ

前ニ云フ訴訟ニ管セサル外人ノ取消ヲ願フ  
トハソノ裁判ヲ受ケタル裁判所ヘ出ツル  
トアレヒ事ニヨレハソノ他ノ裁判所ヘ出  
ツルトナリ之レ異ナル所以ナリ之ヲ「レタ  
ラフター」ニヨシト云フ裁判ヲ取り換ユル  
ノ意ナリ「レケート」ニビルト云フ語ノ「レヒル」



ハ丁寧ナルト云ノ語ナリ

以前ハ「レケートニユルテ」ト云ヒタリ之レハ裁判官等ニ對シテ少シク心持ヲ悪クスル語ナルニハ「レケート」ト云フ字ニ取換ヘタリ

此第一項ハ如何ナル裁判ニ付如何ナル人ニテソノ取消ヲ願フ「」ヲ得ルト云フ「」ヲ説キタルモノナリ

ソノ「レケート」トシビル「」ヲ為スニハタトヘハ欠席ノ裁判ヲ以テ云ヒ渡サレタルトキハ故障ヲ云フ期限アレハ之ヲ為ス「」ヲ得ス必ラス故

### 司法省

障ヲ述フヘシソノ故障ヲ述フル故障ヲ漫ニ過シテ「レケート」トシヒル「」ヲ為ス「」ヲ得ス

控訴ヲ為スヘキ期限アラハ先ツ控訴ヲ為スヘシ然ルニソノ控訴ヲ為サスシテ「レケート」トシヒル「」ヲ為ス「」ヲ得ス

控訴ヲ為シタル上ニ頁ケタルトキニアラサレハ「レケート」トシヒル「」ヲ為ス「」ヲ得ス故障控訴トモニ期限アレハ故障ト控訴トヲ為スヘシ如シ為サ、ルトキハ「レケート」トシヒル「」ヲ為ス「」ヲ得ス



タトヘハ故障ト控訴トアリソノ故障ヲ為サス  
トモ控訴ヲ為スノ權アリ然ルニ故障ヲ為サ  
ルトキハ「レチートレヒル」ノ權ヲ失フナリ  
「レケートレヒル」ヲ為ス人ハ誰レナリヤト云フ  
トキハソノ裁判ニ關係アル人又ハ裁判所へ  
呼ビ出サレタル人ナリ

前條ニアル所ノ外人ハ故障ヲ為ス「トヲ得ルト  
虽レ「レケートレヒル」ヲ為ス「トヲ得ス

之レ第一項ノ大意ニシテ通常ノ道ニテ取リ直  
ス「トヲ得サル場合ニ於テ非常ノ道ヲ以テ裁

### 司法省

判ヲ言渡サレタル裁判所へ顛フ「トナリ

此ノ如ク非常ノ道ナルエハ非常ノ道ヲ以テ補  
フニハ必ラスソノケ条ノ限リナカルヘカラス  
此ノ条中ニ十ヶ条アリ後条ニ一ヶ条アリ合  
セテ十一ヶ条ナリトス

### 第一

本文人ノ詐偽アル「トト昏イテアリテ如何ナル  
人ト云フ「トハ昏イテナシ

甚タ簡畧ニ過キタリ

元来詐偽ト云ヘハ人ノ字ヲ記セズトモ可ナリ



何トナレハ詐偽ハ人ニヤウサレハ無ケレハ  
ナリ

相手方ノ内數人ナリトモ一人ナリトモ區別ス  
ルニ及ハスソノ一人ニ詐偽アルトキナリ  
此所ロニテ書クニハ双方ノ内一方ニ詐偽アル  
トキハ為スヘシ裁判官ノ一ハ別ニ条アリ  
ソノ詐偽アル場合ニ二ツアリ或ハ初告ノ裁判  
ノトキマルトモアリ又ハ終審又ハ控訴ノト  
キ又ハ故障ヲ進フルトキ尤モ裁判ノトキ詐  
偽ノアルトトノミ限ルヘカラス元來ノ契約ニ

### 司法省

詐偽アルトヲ知ラスニテ裁判ヲ言渡サシメ  
ルトキモアリ  
之レ等ノトキハ惣テ此式ヲ用ヒテ取消ヲ願フ  
ナリ

前ノ裁判ニ於テ詐偽アルカ又ハ契約ニ於テ詐  
偽アルカソノ裁判ハ濟ミタルトキハ之レヲ  
補フヘシト虽氏如シレケートシヒルニ於テ  
詐偽アルトキ之レヲ如何スヘキヤ

ソノ片ニハ別ニ方法ナカルヘシ  
上告ハ法律ノ遺ヒタルトキニテ事柄ニ付テハ



上告ヲ為スルヲ得ス第五百三条ヲ見ルハ之レハ一ト度ニレケートシヒルヲ為シタル上ハ再ヒレケートシヒルヲ為スルヲ得サル一ハ説イテアルナリ  
右ノ通りニテソノ裁判ノ取り直シヲ為スルヲ得サルナリ

併シ果シテ詐偽ナルトキハ更ニ初告裁判所ニ新タニ其詐偽ヲ訴フルヲ得ルナリ之レハソノ詐偽ノ償ヲ求ムルナリ

タトハレケートシヒルニ於テ相手方ニテ証  
**司法省**

據テ隠シタルニ付テ負ケ訴訟トナリタルト  
キ

又休暇ノ前ニ一方ノ人ニテ呼出シテ掛ケテ此訴訟ハ休暇ノ後ニ為スルニ付自カラ又ハ使吏ヨリ通シタリ仍テ他ノ一方ノモノハ旅行ヲ為シタリ然ルニ休暇前ニ訴訟ヲ為シタルユハ次序裁判トナツテ負ケタリ

又ハレケートシヒルニ於テ原告人ニテ詐偽ノ証書ヲ出シタリ然ルニ被告人ニテソノ詐偽ヲ見出スルヲ得サルニ依テ負ケタリ



前ノ裁判ノトキニ詐偽アルトキハ「レケート」ニ  
「レ」ニテ取直スト由モ「レケート」ニ「レ」ノト  
キニ詐偽アルトキハ之「レ」ヲ取直スト「レ」ヲ得サ  
ルユヘ更ニ新タニ償ヲ求ムルノ詐訟ヲ為サ  
ルヘカラス

問 「レケート」ニ「レ」ヨリ起リタル詐偽ノ償ヲ  
新タニ初告裁判所へ詐へタルモノハ控訴裁  
判所ニテ止マルヘキヤ

答 然リソノ裁判ヲ控訴シタル上ニテ詐偽ナ  
キヲ以テ控訴裁判所ニ止マリテ「レケート」ト  
シ「レ」ニ出ルヲ得ス

### 司法省

又ソノ初告裁判所ニテ詐偽アリ又ハ控訴裁  
判所ニテ詐偽アルトキハ「レケート」ニ「レ」ニ  
出ルナリ

尤未詐偽ノ契約ナレハ初告裁判所ニテモ控  
訴裁判所ニテモ願ハレサルトキハ「レケート」  
ニ「レ」マテ出ル「レ」ヲ得ルナリ

尤未詐偽ノ「レ」ヲ主タル詐訟トナシタルトキ  
ハ控訴ニ止マルナリ

ニケ月ヲ限ルトハ何時ニテモソノ詐偽ヲ見



出シタルヨリニケ月ニシテ裁判ヲ受ケタル  
ヨリニケ月ニハアラサルナリ

## 第二

法律ニ定メタル所ノ式ニ循ハサルモノハソ  
ノ効ナシト云フ一ハ既ニ説キタリタトハ  
出状ノ書法ソノ式ノ如クナラサルトキハ  
初メニ云フヘキナリ然ルヲ言ハサルトキハ  
ソノ權ヲ失ヒテ後ニ之レヲ言フ一ヲ得ス  
然ルニ之レヲ始メニ言ヒタリトモ裁判官ニテ  
之レヲ取り揚ケスレテ裁判トナリタルトキ

## 司法省

ハ「レケート」トシヒル「ノ式」ヲ以テ云フヘキナリ  
タトニ黙シテ言ハサリシトキト虽氏裁判ヲ廢  
棄スル權ヲ失ハサル「一ツ」アリ管轄ノ違ヒ  
タル裁判也ニテ氣カ付カスニテ一旦裁判ヲ  
受ケタルモノハ「レケート」トシヒル「ノ式」ヲ以テ云  
フ一ヲ得ルナリ之レハ一般ノ公益ナレハナ  
リ

法式ニ違ヒタルトキハ上告モ出来「レケート」  
トシヒル「モ」出来ルナリ

ソノトキハ上告ヲ為スヘシ「レケート」トシヒル「ヲ」



為ス

何トナレハソノ裁判所ノ裁判ニ於テ式ニ違ヒ  
タルトキ之レヲ「レケート」トシヒルニ願ヒタル  
トモ多クハ意ヲ得サルヘキナリ仍テ之レヲ  
上告スルナリ

巴里ニテハ右ノ場合ニ於テハ必ラス上告スル  
ナリ何トナレハ其府下ニ大審院アルユヘナリ  
田舎ニテハ巴里マテハ遠隔ナルユヘ代理人  
ヲ出ス等ソノ他費用モ掛ルユヘ大抵ハ「レケ  
ート」トシヒル「レ」ヲ用ユルナリ

### 司法省

此所但シ以下訳文ヲ改正シテ但シ其法式  
ヲ欠キタルニ因リ本人ソノ以前ニ廢棄ノ  
故障ヲ言ハサル由ハ其權ヲ失フヘシト為  
スヘシ

### 第三

裁判官ハ私益ニ掛リタル「一」ハ人ノ求メナク  
シテ言渡ス「一」ヲ得サルハ原則ナリ

人ノ求メタル「一」ニ由テハ之ヲ是ナリトモ非  
ナリトモ裁判スルハ勝手次第ナリトモ  
決シテ求メサル「一」ヲ言渡ス「一」ヲ得サルナリ



タトヘハ契約ノ解除ヲ求メサルニ之ヲ解除セ  
ヨト言渡シタルトキ

賣買ノ契約ニ付テソノ拂ヒ方ヲ求メタリ然ル  
ニ裁判官ニラツノ契約ヲ解除スルトキ言渡  
シタルトキ又之ニ及シテ契約ノ解除ヲ求メ  
タルニ裁判官ニテソノ契約遅延ノ償金ヲ出  
シテソノ契約ハ存セヨト云ヒ渡シタルトキ  
等

第四

之レハ訴へ出テタルヨリ餘分ノ丁ヲ言ヒ渡シ

司法省

タルトキノ一

第三ト似タルトモ少シク違ヒアリ  
タトヘハ千フランクノ償ヲ求メタリ然ルニ二  
千フランクノ償ヲ言渡シタリ

新条ハ求メサルトキ言渡シタルトキ之ハ求メ  
タレ氏余分ニ言渡タルトキノ一ナリ

第四ノ一ハ稀ニノミアルトキニテ多クハ十キト  
ナリ第三ノ一ハ時々マルトナリ

第三ニ於テ裁判費用ナトハ求メサレハ言渡サ  
ルナリ然ルニ毎ニ求ムルモノナリ仍テ不



注意ニテ求メサルニ言渡スヲアリ

假リノ裁判ニ於テ執行スルハソノ執行ヲ求  
メサレハ言渡スヲ得サルナリ然ルニ取々  
求メサルニ言渡スヲアリ

人ノ違ヒタルニ自ラ裁判所ノ権ノ違ヒタルト  
キモ求メサレハ之レヲ言渡スヲナシ然ルヲ  
求メスレテ言渡シタルトキ

但シ事件ノ違ヒタルハ民法裁判ヲ商法裁判  
所ハ出訴シタルトキ等ハ求メスレテ言渡ス  
ナリ之ハ求メサレハ言渡サルトキノナリ

### 司法省

此第四項ハ求メタレ氏余分ニ言渡シタルナリ

コ、ニ第三ト第四トヲ犯スヲアリ

「ホヤソナード」ニテ契約ノ解除ヲ求メタルソノ  
キハソノ解除ト共ニ償ヲ求ムルヲ得ルナリ

然ルニ之ヲ求メサルトキハ裁判所ヨリ契約

ヲ解除ス償金トヲ言渡シタリ之レハ求メタ  
ルトト求メサルトトヲ言渡シタルナリ

### 第五



之ハ求メタルノ欠ケタルニテ第三ノ裏ナ  
リ

又トハハ契約ノ解除ト償金ヲ求メタルニ解除  
ノミヲ言渡シテ償金ノ事ヲ裁判言渡サ、ル  
トキ

司法省



四十五

訴訟法會議筆記

第四十五号

司法省



第四百八十條ノ内

第六

法律ニ於テ間違ノ生セサルマウニ注意スレバ  
時ニヨリテ間違ヲ生スルコトアリ

故障ヲ述フル條ニ於テコレチスパンダーニト云

ヒテ既ニ甲ノ裁判所へ訴へタルモノヲ更ニ

他ノ乙ノ裁判所へ訴へタリ

之ハ防カサルヘカラス何トナレハ二事相混シ

タル訴訟ヲニツノ裁判所ニテ裁判ヲ為セハ

司法省

ナリ

タトハハ又推物推相混シタル訴訟ニ於テ甲ノ

裁判所ト乙ノ裁判所トニツノ裁判所へ訴へ

タリソノトキハ乙カ又ハ甲ノ裁判所へ取り

纏メサルヘカラスソノトキハ被告人ニテ之

レヲ一ツノ裁判所へ移シタキ者ヲ求ムルコト

ヲ得ル之ハソノ裁判言渡マテバ之レヲ願フ

コトヲ得ルナリ

原告人モ一ツノ裁判所へ願ヒ下ケテ為スコトヲ

得ル